

V 調査結果の分析 《乳幼児・小学生調査》

<調査実施の概要>

①調査地域	江東区内全域
②調査方法 調査期間	郵送法（郵送配付一郵送・インターネット回収） 令和5年9月19日（火）～10月13日（金）
③標本数	800人
④有効回収数	391人
⑤有効回収率	48.9%

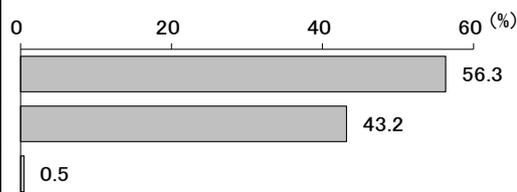
※《乳幼児・小学生》については、保護者の回答であるため、保護者の心がけや姿勢として捉える必要がある。

1 基本的な属性について

(1) 基本的な属性

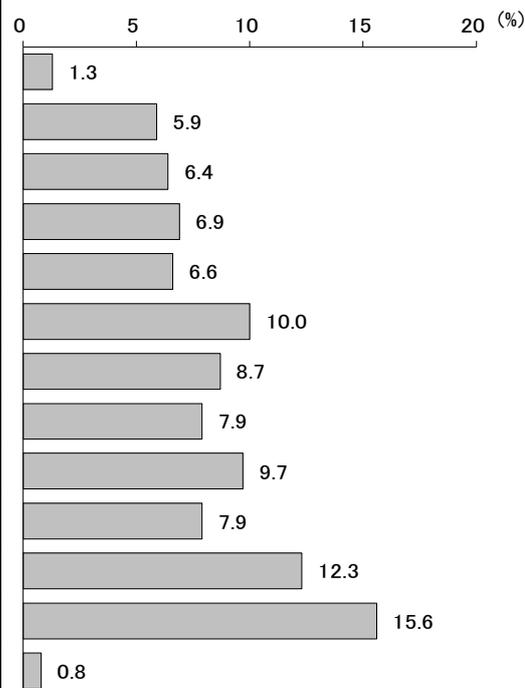
① 性別

	基数(人)	構成比(%)
1 男性	220	56.3
2 女性	169	43.2
(無回答)	2	0.5
合計	391	100.0



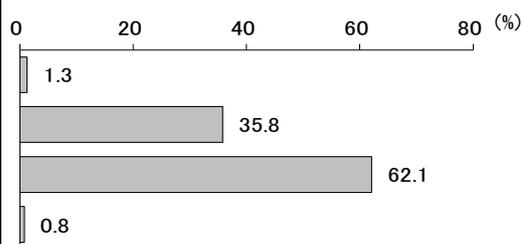
② 年齢別

	基数(人)	構成比(%)
1 0歳	5	1.3
2 1歳	23	5.9
3 2歳	25	6.4
4 3歳	27	6.9
5 4歳	26	6.6
6 5歳	39	10.0
7 6歳	34	8.7
8 7歳	31	7.9
9 8歳	38	9.7
10 9歳	31	7.9
11 10歳	48	12.3
12 11歳	61	15.6
(無回答)	3	0.8
合計	391	100.0



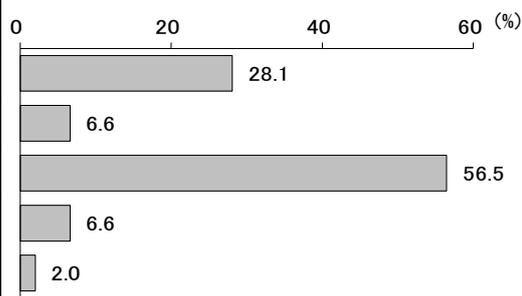
③ 年齢別 (3分類)

	基数(人)	構成比(%)
1 乳児 (0歳)	5	1.3
2 幼児 (1～5歳)	140	35.8
3 小学生 (6歳以上)	243	62.1
(無回答)	3	0.8
合計	391	100.0



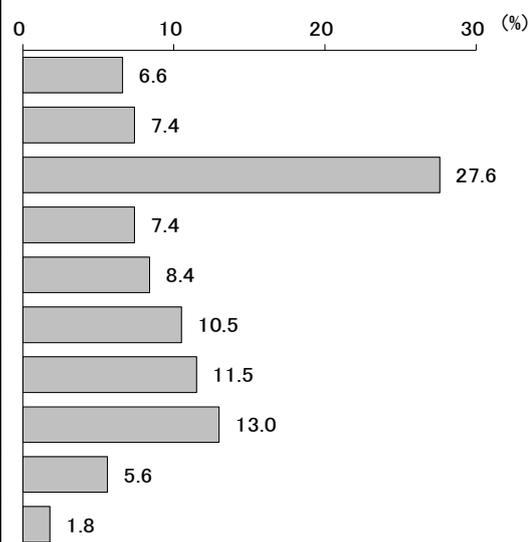
④ 通園・通学先

	基数(人)	構成比(%)
1 保育園	110	28.1
2 幼稚園	26	6.6
3 小学校	221	56.5
4 その他	26	6.6
(無回答)	8	2.0
合計	391	100.0



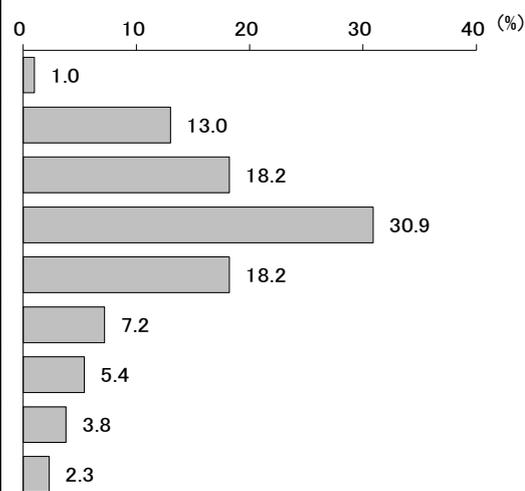
⑤ 居住地区

	基数(人)	構成比(%)
1 白河地区	26	6.6
2 富岡地区	29	7.4
3 豊洲地区	108	27.6
4 小松橋地区	29	7.4
5 東陽地区	33	8.4
6 亀戸地区	41	10.5
7 大島地区	45	11.5
8 砂町地区	51	13.0
9 南砂地区	22	5.6
(無回答)	7	1.8
合計	391	100.0



⑥ 居住年数

	基数(人)	構成比(%)
1 1年未満	4	1.0
2 1～3年未満	51	13.0
3 3～5年未満	71	18.2
4 5～10年未満	121	30.9
5 10～15年未満	71	18.2
6 15～20年未満	28	7.2
7 20～30年未満	21	5.4
8 30年以上	15	3.8
(無回答)	9	2.3
合計	391	100.0



(2) 乳児（0歳）と幼児（1～5歳）の身長・体重

①乳児（0歳）の身長・体重

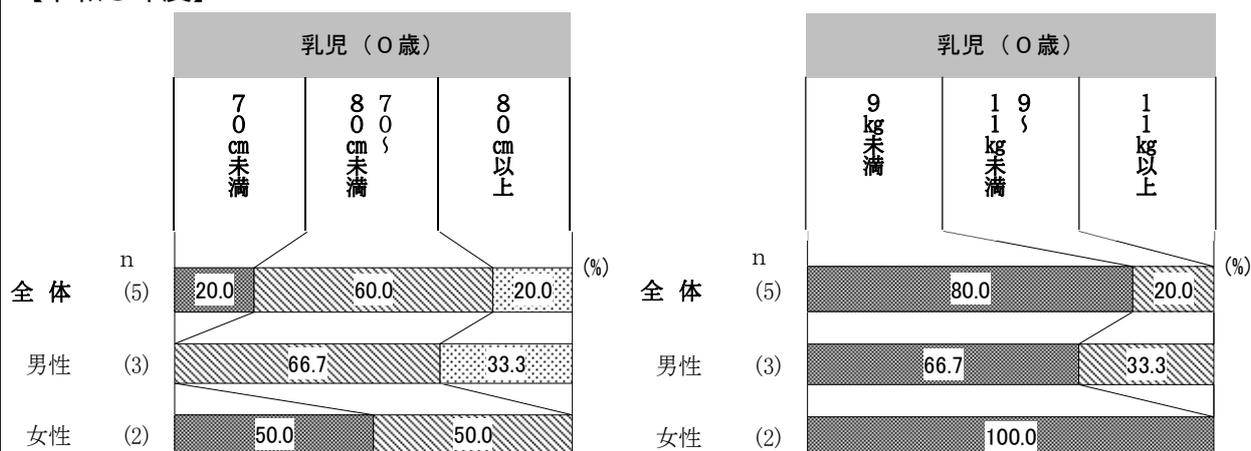
◇乳児の平均身長は72.4cm、平均体重8.4kg

問4 お子さんのおよその身長と体重を整数でご記入ください

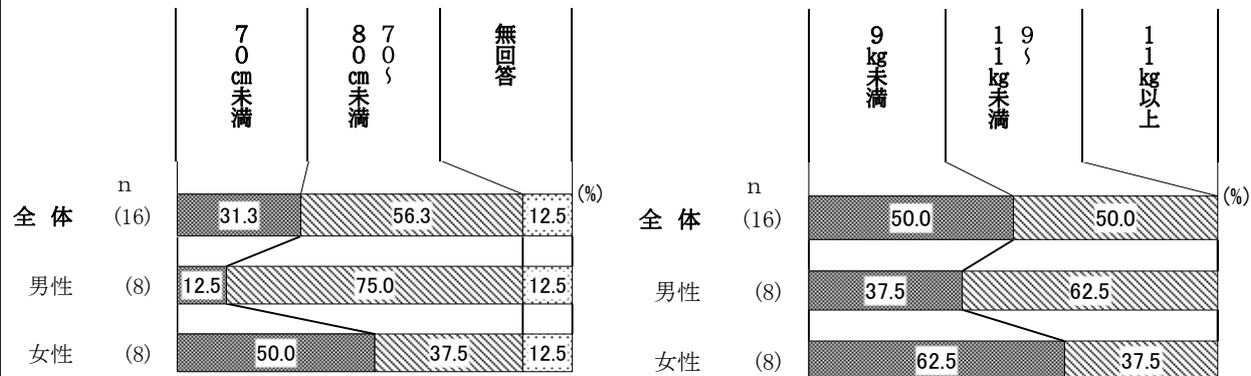
<図表V-1-1>乳児（0歳）の身長・体重

〔身長・体重〕

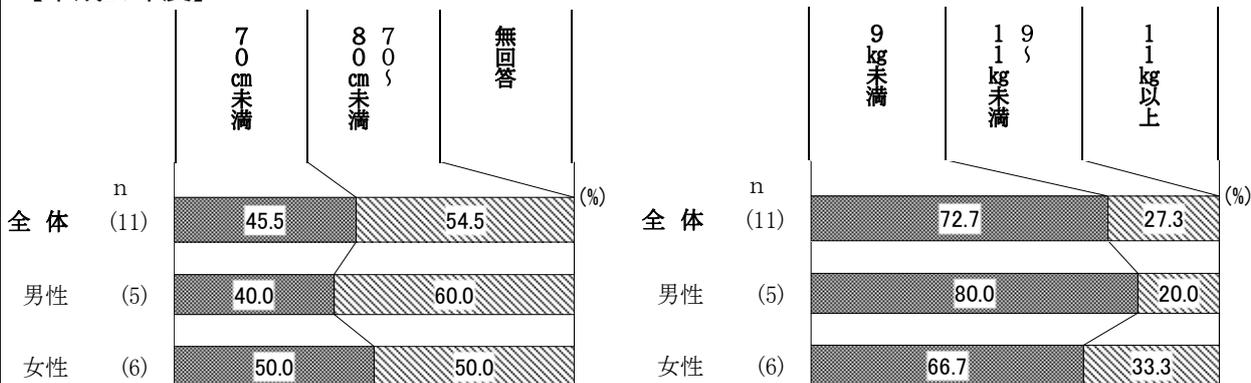
【令和5年度】



【平成29年度】



【平成25年度】



〔平均身長・体重〕

【令和5年度】

(cm)	
	全体
全体	72.4
男性	74.3
女性	69.5

(kg)	
	全体
全体	8.4
男性	8.7
女性	8.0

【平成29年度】

(cm)	
	全体
全体	71.1
男性	72.5
女性	69.6

(kg)	
	全体
全体	8.1
男性	8.3
女性	7.9

※「全体」には、太字で下線を施している。

乳児（0歳）の身長・体重は、成長速度が著しいため、対象者の分布している概略を参考までに掲載するに留める。（図表V-1-1）

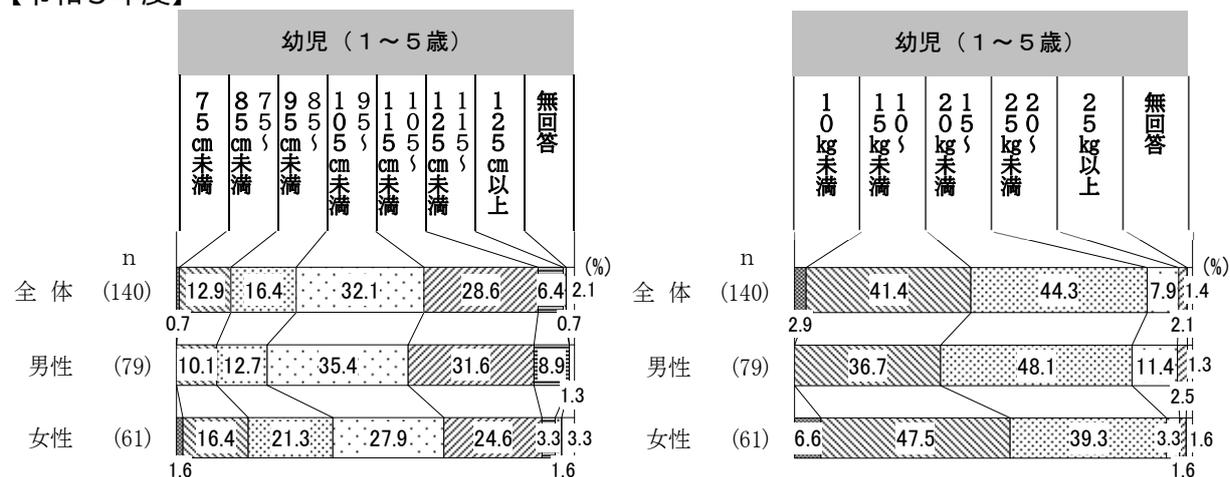
②幼児（1～5歳）の身長・体重

◇幼児の平均身長は98.5cm。平均体重は15.1kg

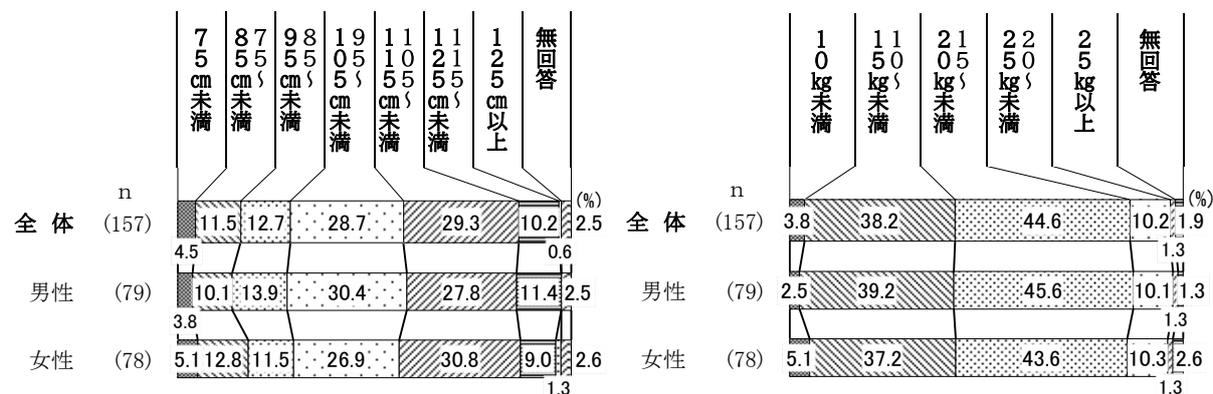
<図表V-1-2> 幼児（1～5歳）の身長・体重

〔身長・体重〕

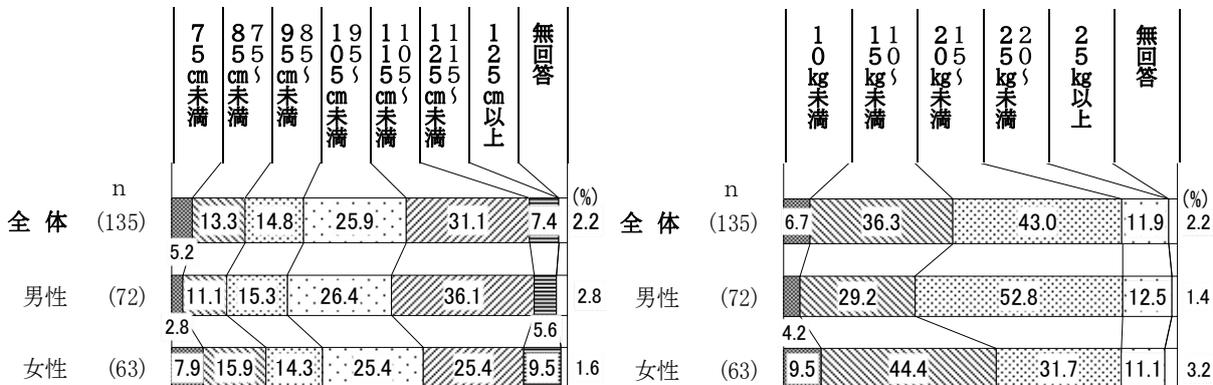
【令和5年度】



【平成29年度】



【平成25年度】



〔平均身長・体重〕

【令和5年度】

	(cm)	(kg)
全体	<u>98.5</u>	<u>15.1</u>
男性	100.2	15.7
女性	96.2	14.3

【平成29年度】

	(cm)	(kg)
全体	<u>99.1</u>	<u>15.1</u>
男性	99.4	15.3
女性	98.8	14.9

※「全体」には、太字で下線を施している。

幼児（1～5歳）の身長・体重は、成長速度が著しいため、対象者の分布している概略を参考までに掲載するに留める。（図表V-1-2）

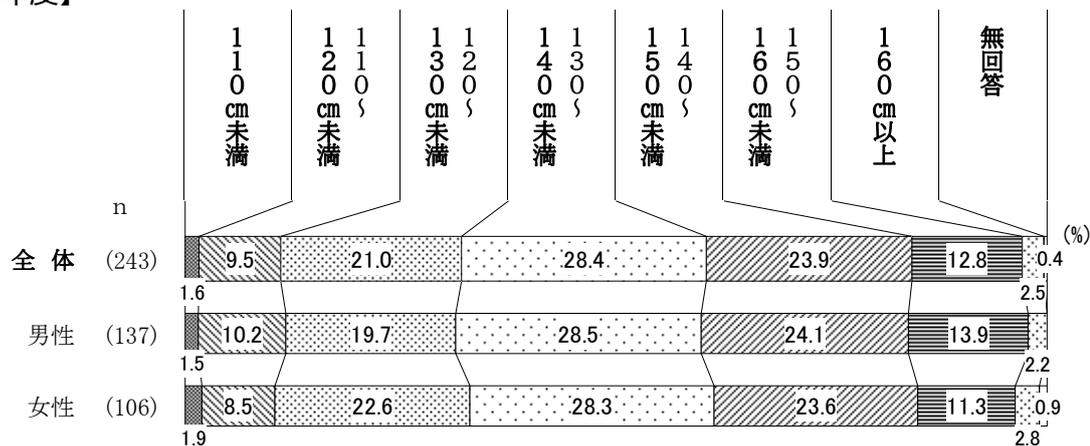
(3) 小学生（6歳以上）の身長・体重

①小学生（6歳以上）の身長

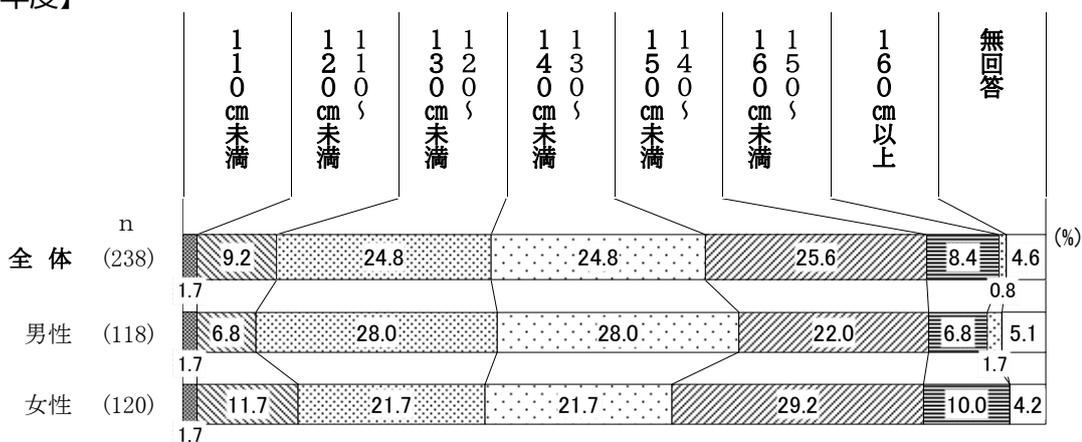
◇平均身長は年齢が上がるほど高く、11歳で148.1cm

<図表V-1-3>小学生（6歳以上）の身長

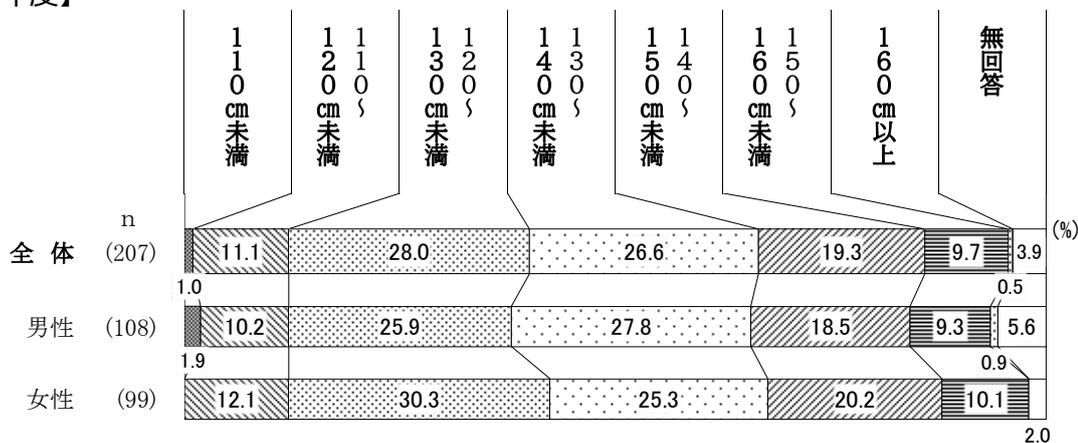
【令和5年度】



【平成29年度】



【平成25年度】



身長は平均身長が134.3cmで、構成比は「130cm～140cm未満」(28.4%)が約3割で最も高く、次いで「140cm～150cm未満」(23.9%)が2割台半ば、「120cm～130cm未満」(21.0%)が2割を超えている。

性別で見ると、男性の平均身長は134.6cmで、女性の平均身長は134.0cmである。従って、男女の差は0.6cmである。また、構成比では、男女ともに「130～140cm未満」が最も高く、約3割となっている。

過去の調査結果と比較すると、全体では平成29年度から大きな違いはみられない。性別では女性は、平成29年度から「130～140cm未満」が6ポイント増加し、「140～150cm未満」が5ポイント減少している。(図表V-1-3)

【性／年齢別】

<図表V-1-4>

〔平均身長〕

	(cm)						
	全体	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳
全体	<u>134.3</u>	<u>115.3</u>	<u>124.4</u>	<u>128.7</u>	<u>135.6</u>	<u>140.0</u>	<u>148.1</u>
男性	<u>134.6</u>	115.1	125.2	128.5	135.8	139.8	148.5
女性	<u>134.0</u>	115.6	123.5	128.9	135.3	140.2	147.3

※「全体」には、太字で下線を施している。

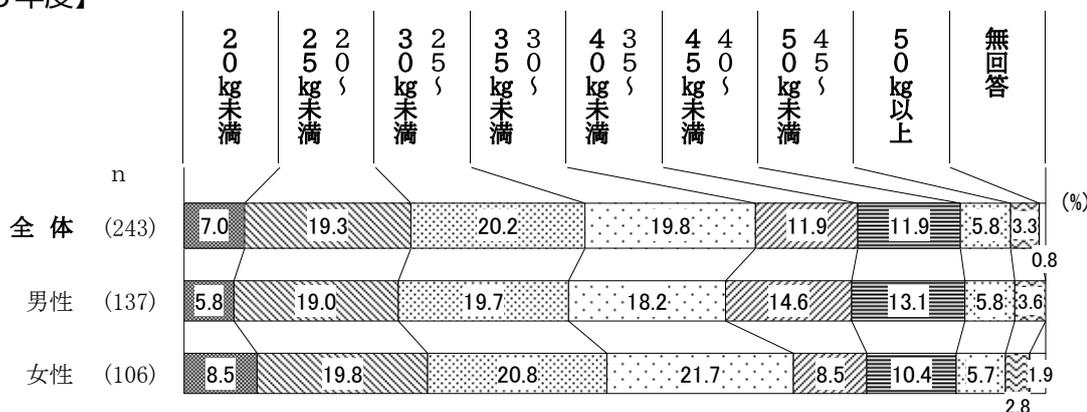
男性の平均身長は、当然のことながら年齢が上がるほど漸増し、11歳では148.5cmとなり、高低差は33.4cmである。一方、女性の平均身長も同様に、年齢が上がるほど漸増し、11歳で147.3cmとなり、高低差は31.7cmとなっている。(図表V-1-4)

②小学生（6歳以上）の体重

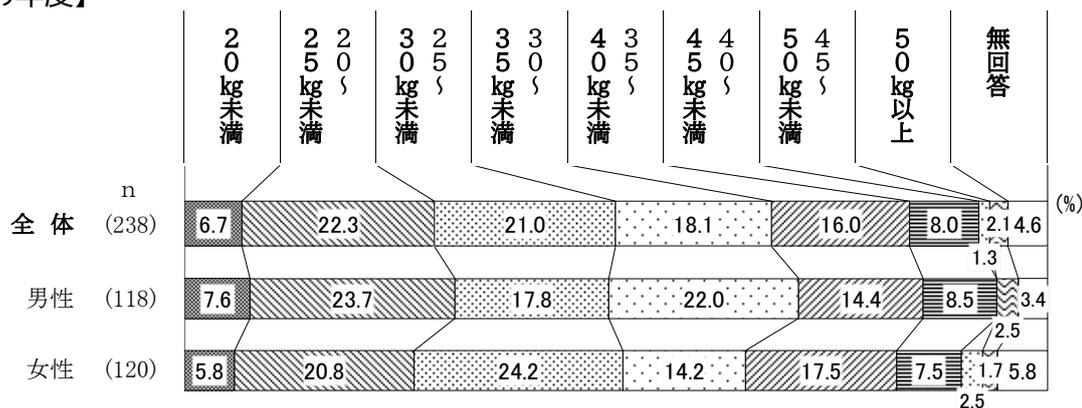
◇平均体重は年齢が上がるほど増え、11歳で39.5kg

<図表V-1-5>小学生（6歳以上）の体重

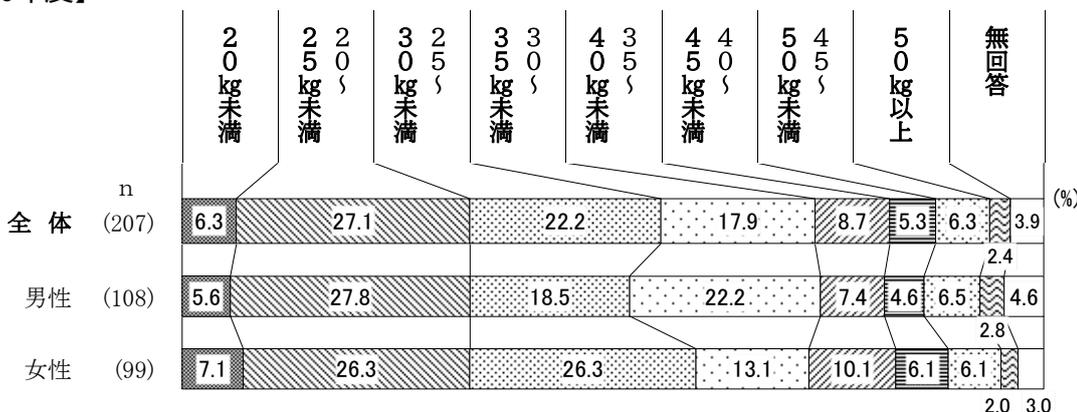
【令和5年度】



【平成29年度】



【平成25年度】



体重は平均体重が31.0kgで、構成比は「25～30kg未満」(20.2%)、「30～35kg未満」(19.8%)、「20～25kg未満」(19.3%)が2割前後となっている。また、「35～40kg未満」と「40～45kg未満」(ともに11.9%)が1割を超えている。

性別で見ると、男性の平均体重は31.7kgで、女性の平均体重は30.1kgである。従って、男女の差は1.6kgとなっている。また、構成比では、男性は「20～25kg未満」「25～30kg未満」「30～35kg未満」が、それぞれ約2割で並んでいる。女性も「20～25kg未満」「25～30kg未満」「30～35kg未満」が2割前後で並んでいる。

過去の調査結果と比較すると、全体、男女とも「20～25kg未満」は漸減傾向にあり、平成25年度から6～8ポイント減となっている。また、女性は平成29年度から「30～35kg未満」が7ポイント増加、「35～40kg未満」が9ポイント減少している（図表V-1-5）

【性／年齢別】

<図表V-1-6>

〔平均体重〕

	(kg)						
	全体	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳
全体	<u>31.0</u>	<u>19.7</u>	<u>24.8</u>	<u>27.7</u>	<u>31.4</u>	<u>34.4</u>	<u>39.5</u>
男性	31.7	20.1	25.1	28.6	31.5	35.9	40.0
女性	<u>30.1</u>	19.1	24.4	26.1	31.3	32.9	38.7

※「全体」には、太字で下線を施している。

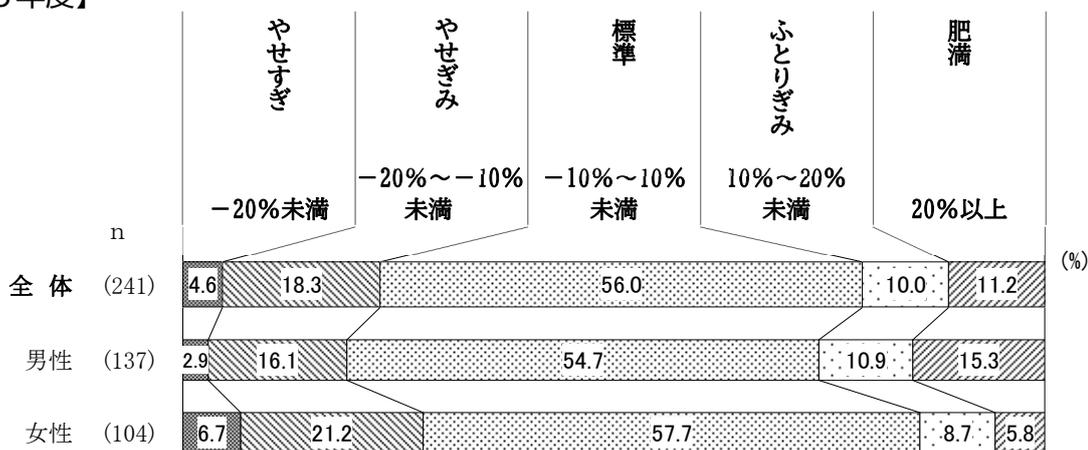
男性の平均体重は、年齢が上がるほど漸増し、11歳で40.0kgとなり、高低差は19.9kgである。一方、女性の平均体重も同様に、年齢が上がるほど漸増し、11歳で38.7kgとなり、高低差は19.6kgである。（図表V-1-6）

(4) 小学生（6歳以上）の肥満度

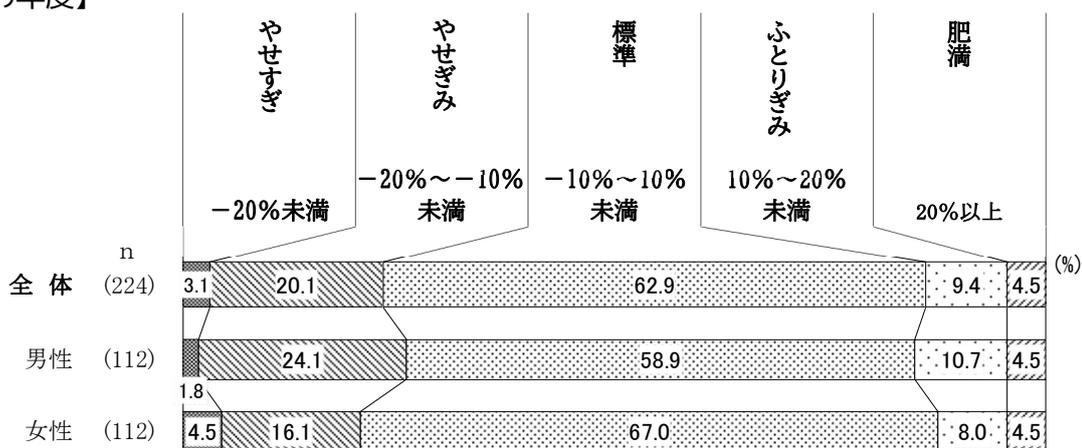
◇平均肥満度は0.7%

<図表V-1-7>小学生（6歳以上）の肥満度

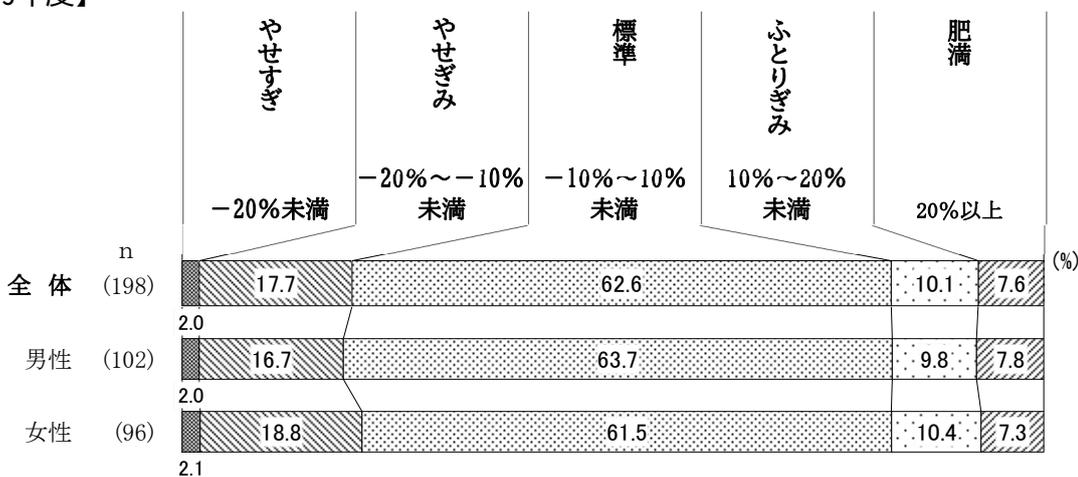
【令和5年度】



【平成29年度】



【平成25年度】



小学生についても【中学・高校生調査】と同様に日比式を用いて肥満度を算出してみたところ、肥満度の平均は0.7%である。構成比で見ると、「標準：-10%~10%未満」(56.0%)が5割台半ばで最も高く、次いで「やせぎみ：-20%~-10%未満」(18.3%)が約2割、「肥満：20%以上」(11.2%)が1割を超えている。

性別で見ると、男性全体の平均は2.9%で、女性全体の平均は-2.3%である。構成比で見ると、「やせぎみ」は女性が男性より5ポイント高く、2割を超え、「肥満」は男性が女性より9ポイント高く、1割台半ばとなっている。

過去の調査結果と比較すると、全体では平成29年度から「肥満」は6ポイント増加し、「標準」は6ポイント減少している。性別では、男性は平成29年度から「肥満」が10ポイント増加し、「やせぎみ」が8ポイント減少している。女性は平成29年度から「やせぎみ」が5ポイント増加、「標準」が9ポイント減少している。(図表V-1-7)

【性／年齢別】

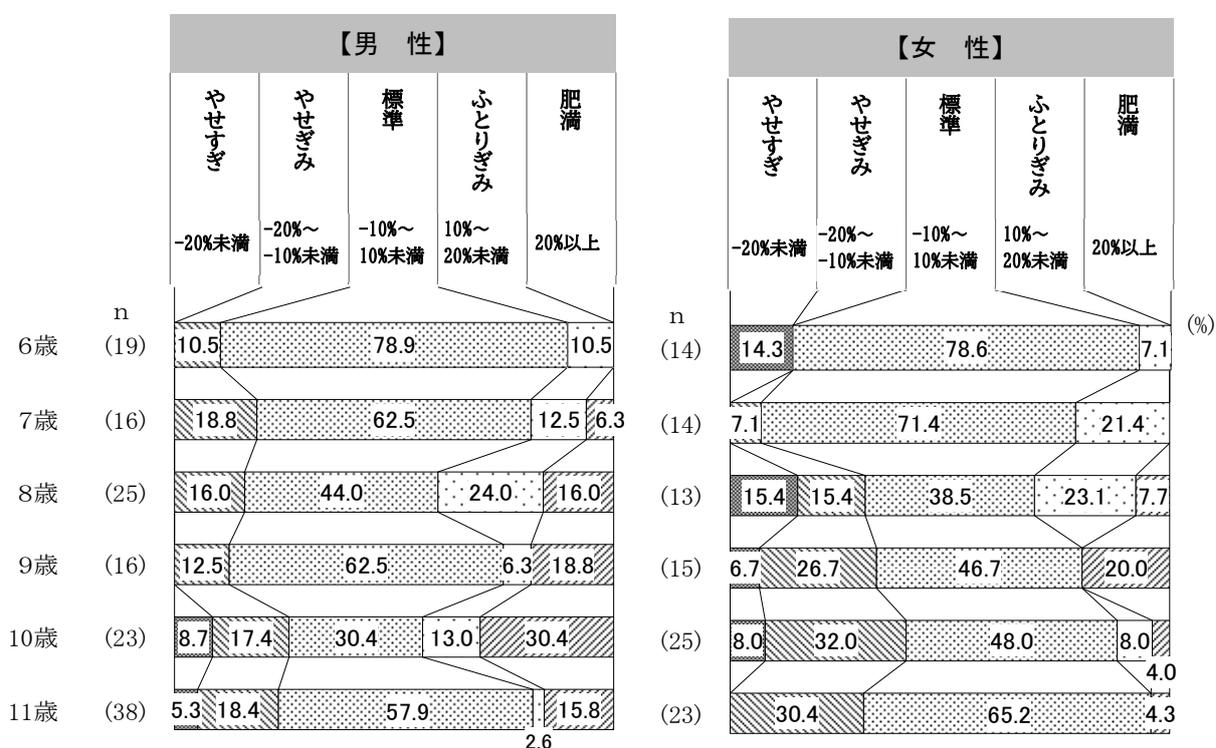
<図表V-1-8>

〔平均肥満度〕

	全体	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳
全体	<u>0.7</u>	<u>-3.8</u>	<u>1.8</u>	<u>3.8</u>	<u>2.4</u>	<u>1.1</u>	<u>-0.7</u>
男性	<u>2.9</u>	-1.8	1.5	7.6	2.4	6.6	0.7
女性	<u>-2.3</u>	-6.6	2.2	-3.4	2.4	-4.0	-3.0

※「全体」には、太字で下線を施している。

〔構成比〕



※男女ともに人数の少ない年齢層が多いが、『健康日本21』の指標に合わせるため掲載する。

平均肥満度でみると、男性は8歳が最も高く7.6%、6歳で最も低く-1.8%となっている。女性では、9歳が最も高く2.4%、6歳で最も低く-6.6%となっている。

構成比でみると、男性では「標準」は6歳が約8割と高く、「ふとりぎみ」は8歳で2割台半ば、「肥満」は10歳で3割となっている。女性では「やせぎみ」は10歳以上が3割台と高く、「標準」は6歳が約8割と高くなっている。(図表V-1-8)

(5) かかりつけの医薬機関

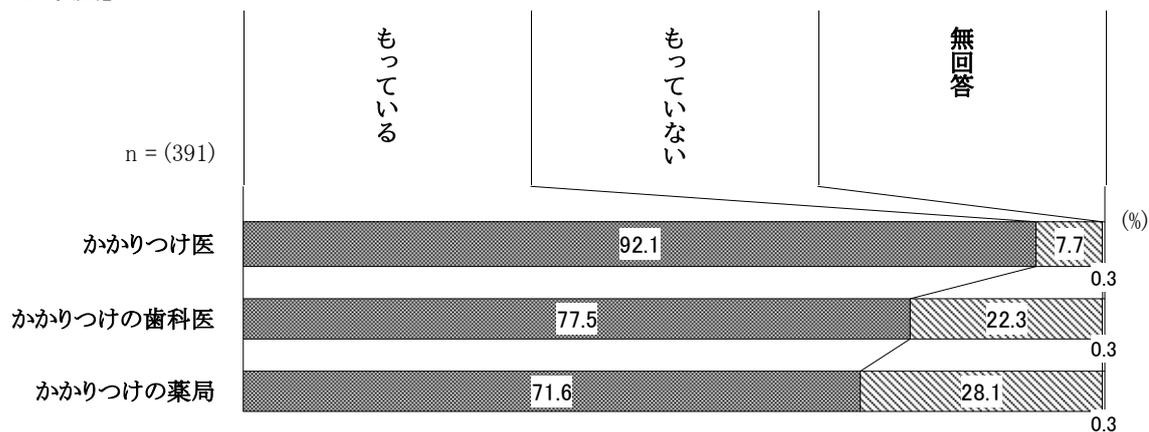
◇ “かかりつけ医”を「もっている」が9割を超えている

問5-1 お子さんは、かかりつけの医者・歯科医・薬局をもっていますか。

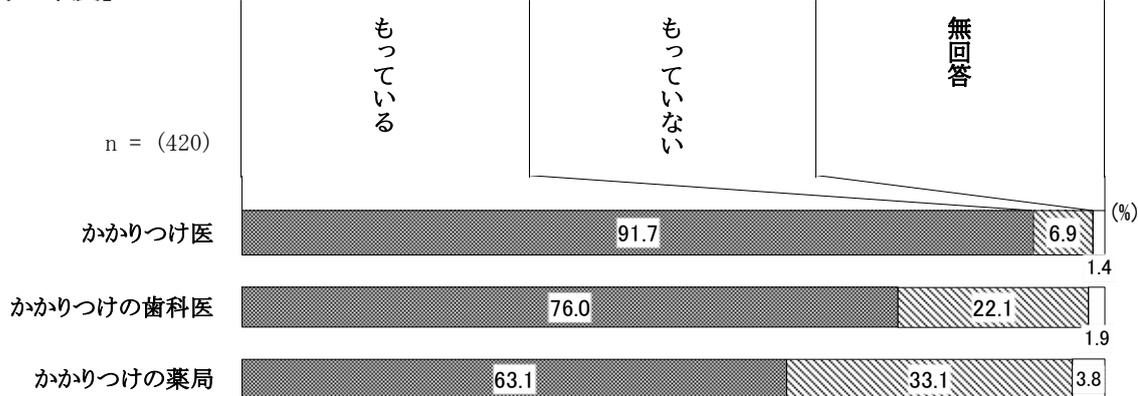
(○はそれぞれ1つずつ)

<図表V-1-9>かかりつけの医薬機関

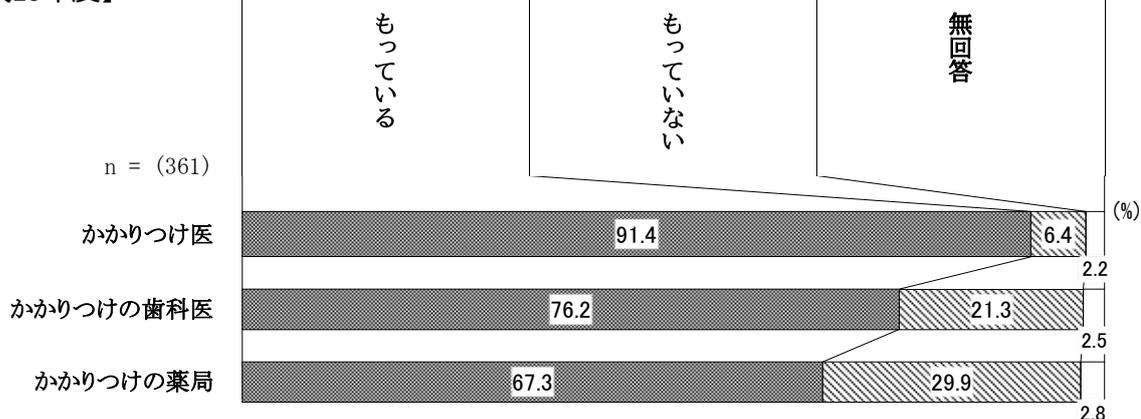
【令和5年度】



【平成29年度】



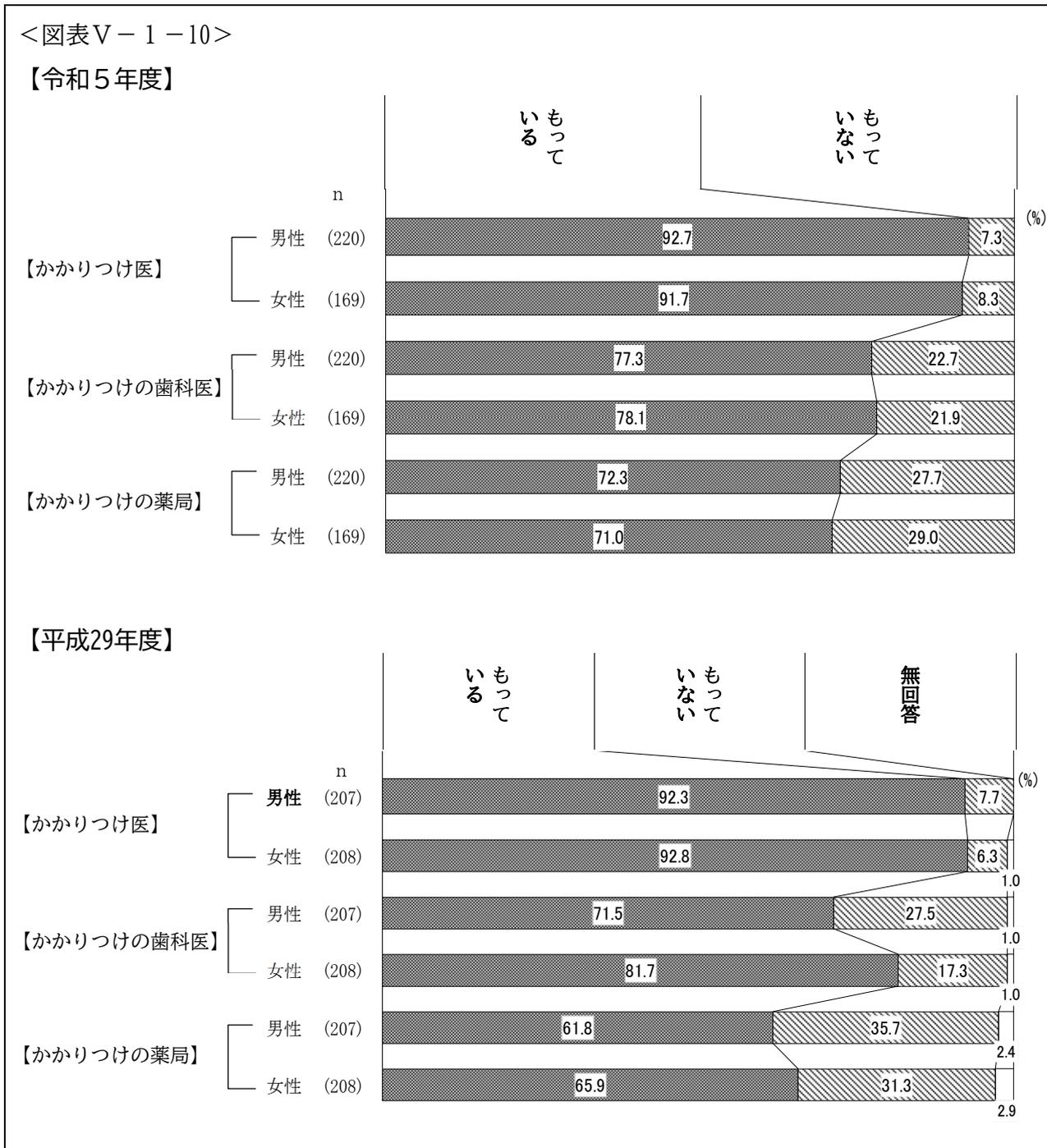
【平成25年度】

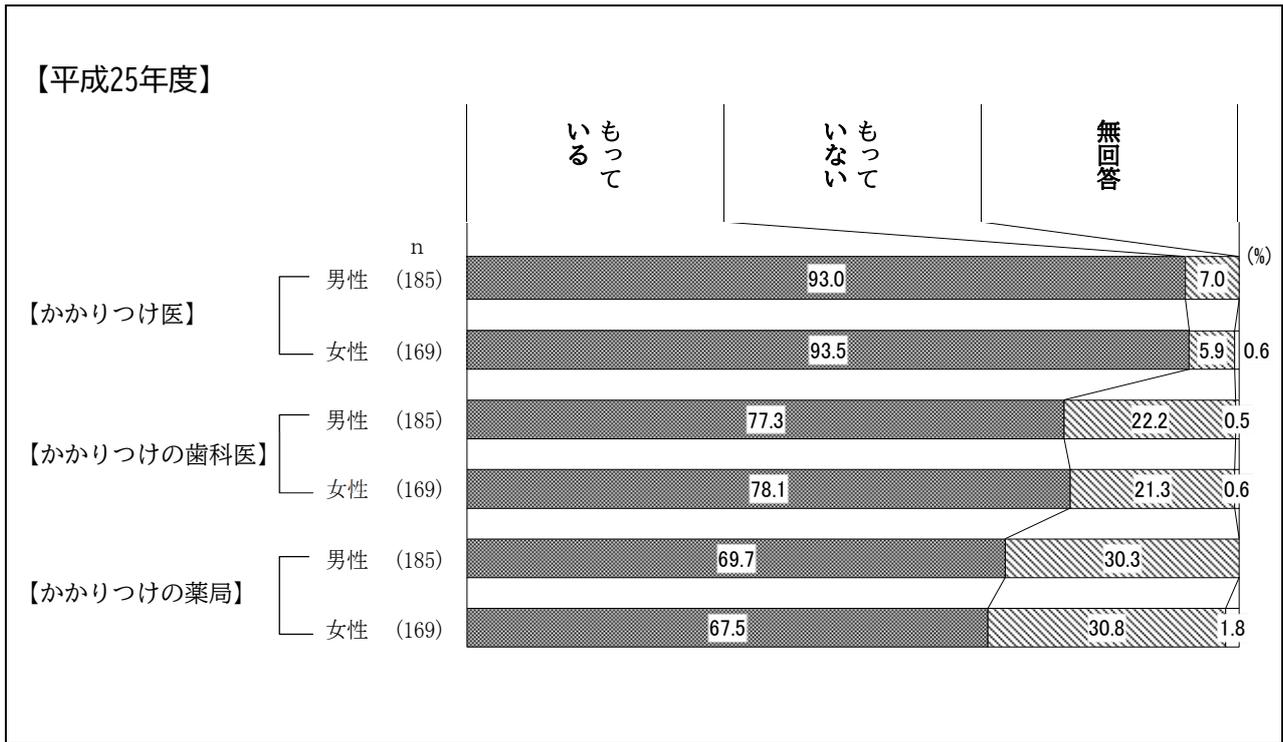


かかりつけの医療機関について聞いたところ、“かかりつけ医”を「もっている」(92.1%)が9割を超え、“かかりつけの歯科医”を「もっている」(77.5%)が約8割、“かかりつけの薬局”を「もっている」(71.6%)が7割を超えている、いずれも「もっていない」を上回っている。

過去の調査結果と比較すると、“かかりつけ医”“かかりつけの歯科医”では、大きな違いはみられない。“かかりつけの薬局”は、「もっている」が平成29年度から8ポイント増加し、「もっていない」が5ポイント減少している。(図表V-1-9)

【性別】





性別では、いずれの医薬機関においても、大きな違いはみられない。

過去の調査結果と比較すると、“かかりつけ医”と“かかりつけ歯科医”は、大きな違いは見られない。“かかりつけの薬局”は、平成29年度から「もっている」が男性は10ポイント、女性は5ポイント増加し、「もっていない」は男性が8ポイント減少した。(図表V-1-10)

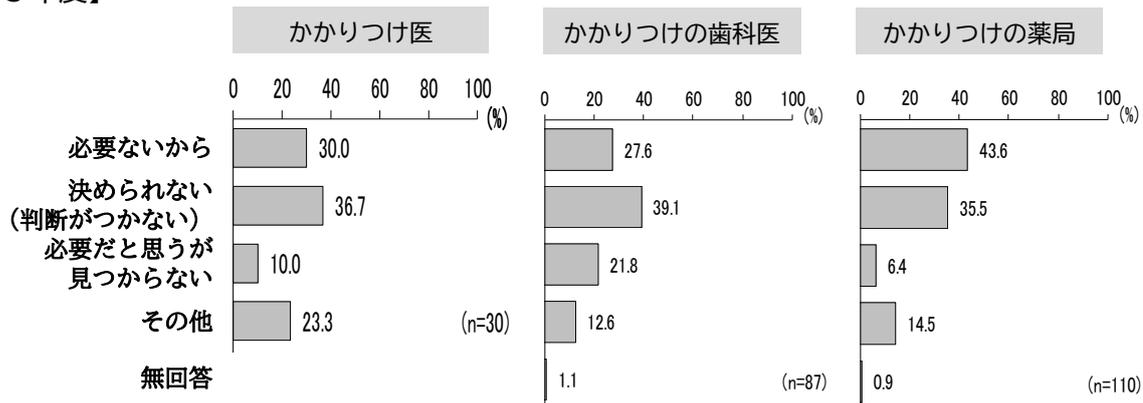
(6) かかりつけの医薬機関をもっていない理由

◇ “かかりつけの薬局” は「必要ないから」が4割台半ば

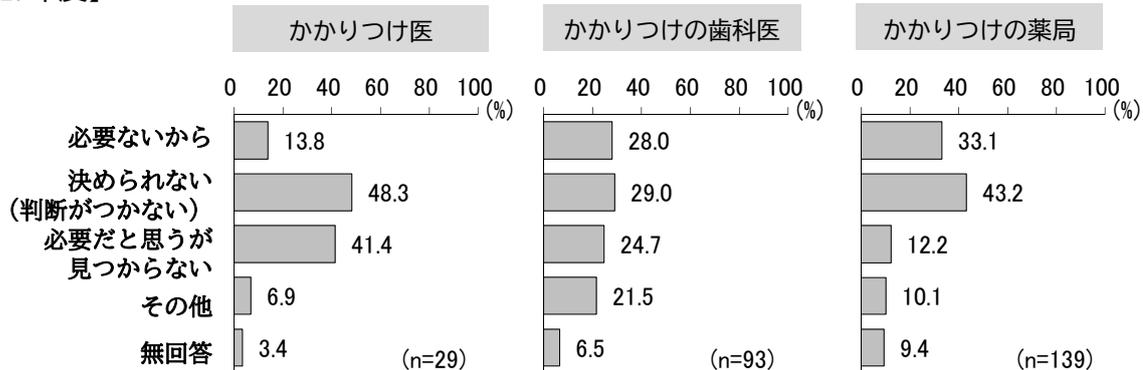
(問5-1で、1つでも「2 もっていない」とお答えの方に)
問5-2 もっていない理由に○をつけてください (○はそれぞれいくつでも)

<図表V-1-11> かかりつけの医薬機関をもっていない理由

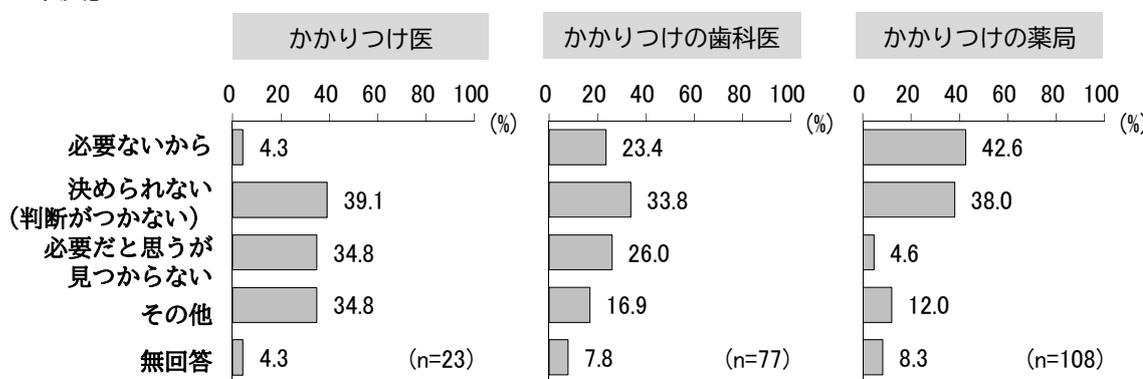
【令和5年度】



【平成29年度】



【平成25年度】



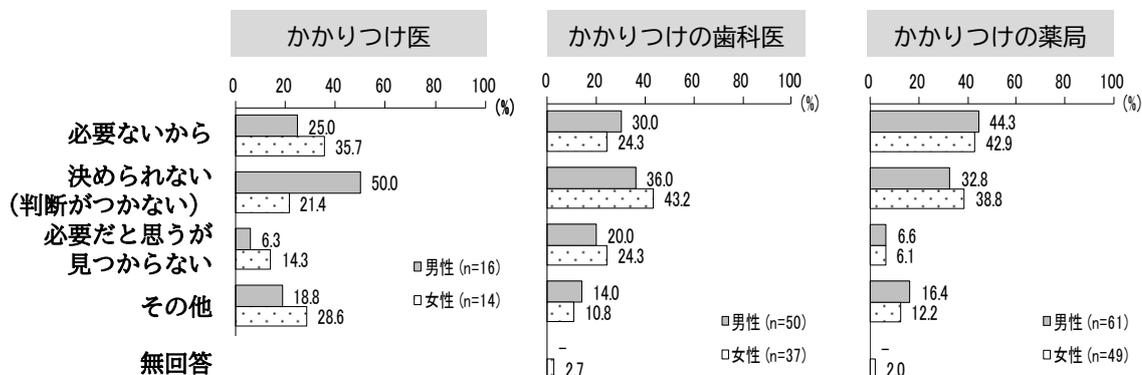
問5-1で、1つでも「もっていない」と回答した人にその理由を聞いたところ、「決められない（判断がつかない）」が最も高いのは、“かかりつけ医”（36.7%）と“かかりつけの歯科医”（39.1%）で、それぞれ3割台半ば、約4割となっている。また“かかりつけの薬局”は「必要ないから」（43.6%）が4割台半ばと高くなっている。

過去の調査結果と比較すると、“かかりつけの歯科医”は「決められない（判断がつかない）」が10ポイント増加している。“かかりつけの薬局”は「必要ないから」が10ポイント増加し、「決められない（判断がつかない）」が7ポイント、「必要だと思うが見つからない」が5ポイント減少している。なお、“かかりつけ医”は、平成29年度以前のnが少ないため参考までに留める。（図表V-1-11）

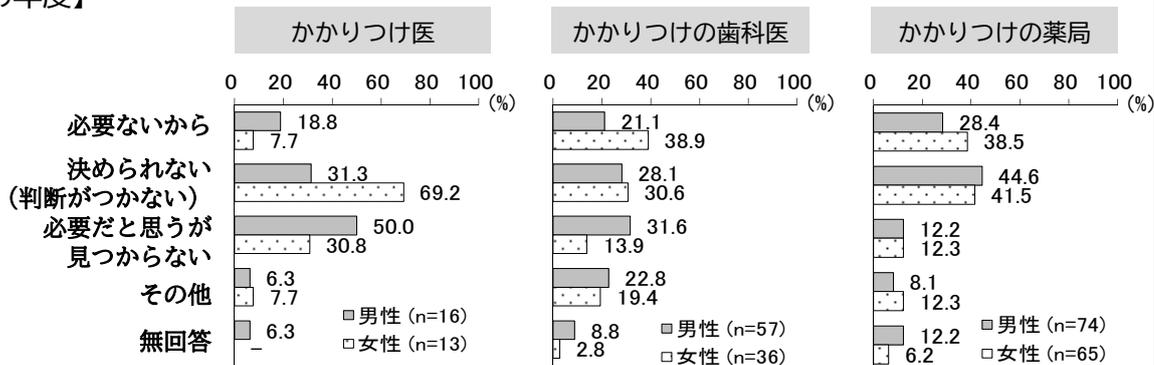
【性別】

<図表V-1-12>

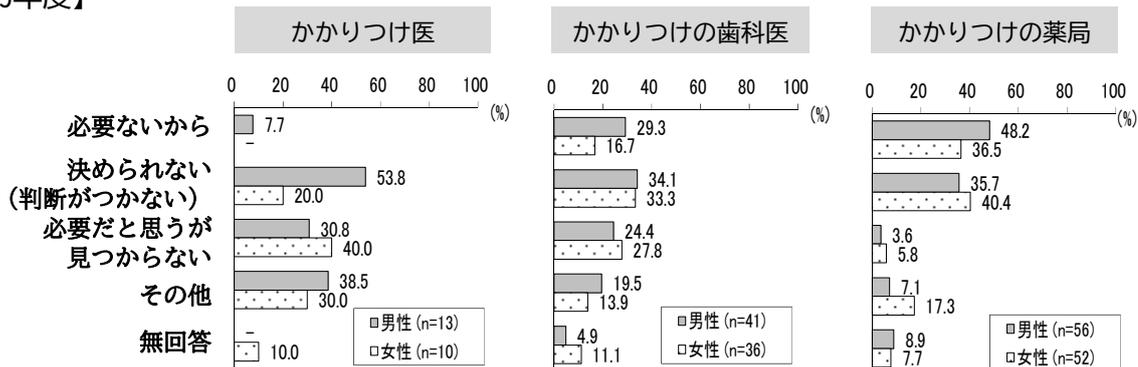
【令和5年度】



【平成29年度】



【平成25年度】



性別でみると、「かかりつけの歯科医」では「必要ないから」は男性が女性より5ポイント高く、3割、「決められない (判断がつかない)」は女性が男性より7ポイント高く、4割台半ばとなっている。「かかりつけの薬局」では「決められない (判断がつかない)」は女性が男性より6ポイント高く、約4割となっている。なお、「かかりつけ医」はnが少ないため参考までに留める。

過去の調査結果と比較すると、“かかりつけの歯科医”は、男性で平成29年度から「必要ないから」が8ポイント、「決められない（判断がつかない）」が7ポイント増加し、「必要だと思うが見つからない」が11ポイント減少している。女性は平成29年度から「決められない（判断がつかない）」が12ポイント、「必要だと思うが見つからない」が10ポイント増加し、「必要ないから」が14ポイント減少している。また、“かかりつけの薬局”は、男性で平成29年度から「必要ないから」が15ポイント増加し、「決められない（判断がつかない）」が11ポイント、「必要だと思うが見つからない」が5ポイント減少している。女性は平成29年度から「必要だと思うが見つからない」が6ポイント減少している。（図表V-1-12）

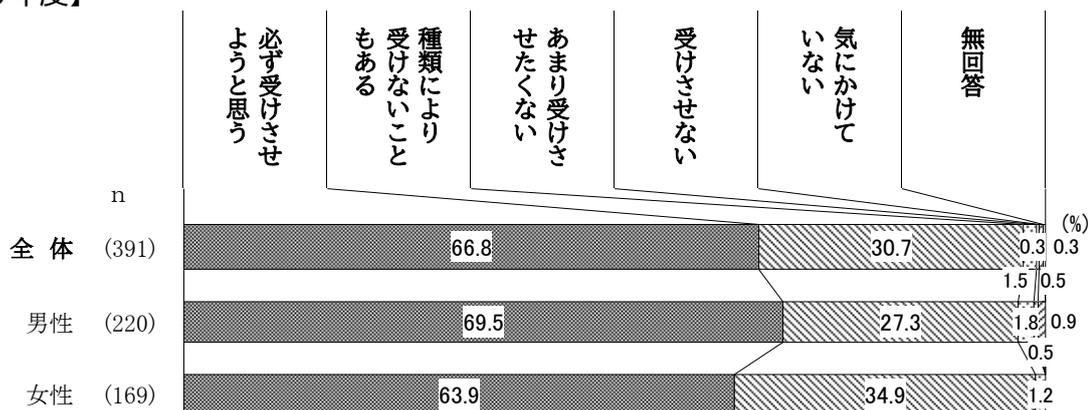
(7) 予防接種の心がけ

◇「必ず受けさせようと思う」が6割台半ば

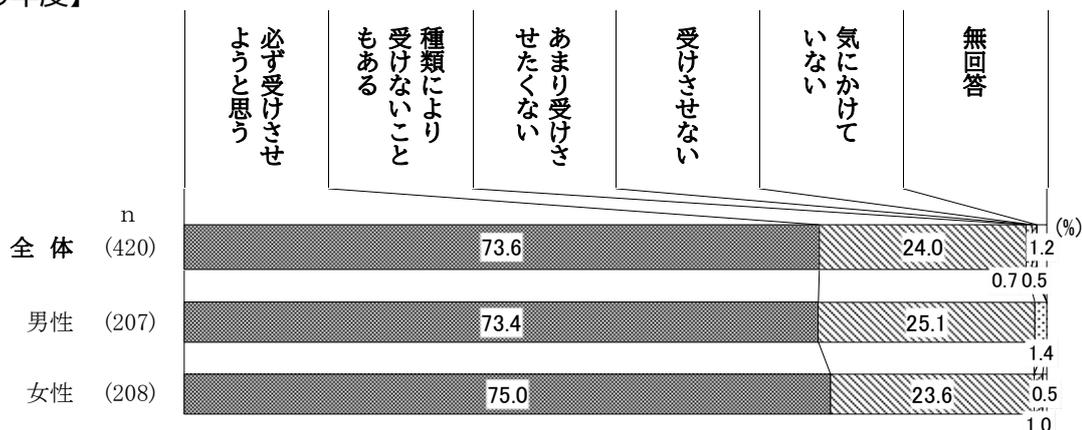
問6 あなたは、お子さんに定期的に予防接種を受けさせるよう心がけていますか。
(○は1つだけ)

<図表V-1-13> 予防接種の心がけ

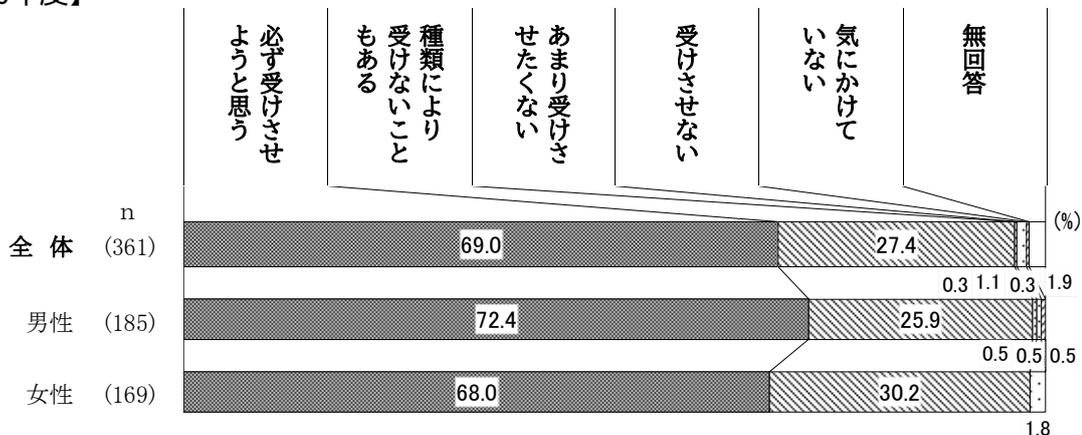
【令和5年度】



【平成29年度】



【平成25年度】



予防接種の心がけについて聞いてみたところ、「必ず受けさせようと思う」(66.8%)が6割台半ばでもっとも高く、次いで「種類により受けないこともある」(30.7%)が3割となっている。

性別で見ると、「必ず受けさせようと思う」は男性が女性より5ポイント高く、約7割、「種類により受けないこともある」は女性が男性より7ポイント高く、3割台半ばとなっている。

過去の調査結果と比較すると、全体、女性では、平成29年度から「種類により受けないこともある」は、それぞれ6ポイント、11ポイント増加し、「必ず受けさせようと思う」がそれぞれ6ポイント、11ポイント減少している。(図表V-1-13)

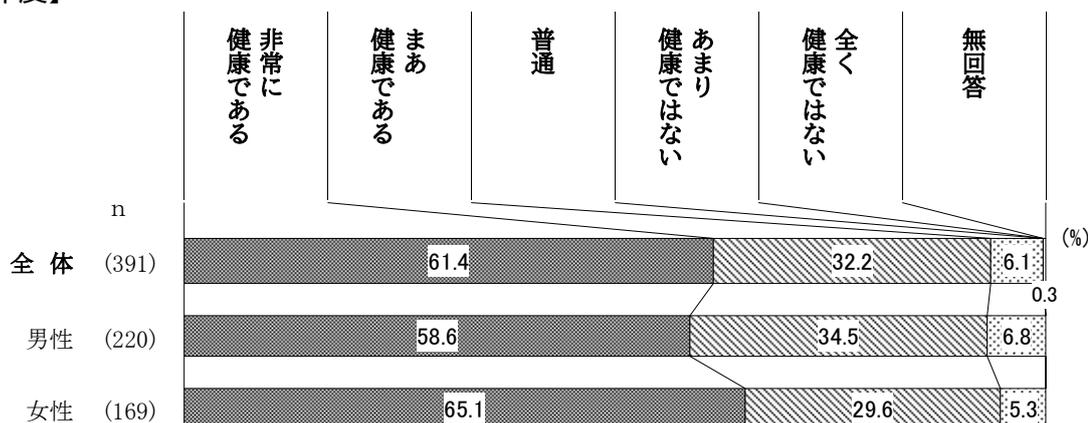
(8) こどもの健康状態（主観的）

◇《健康である》が9割台半ばを占める

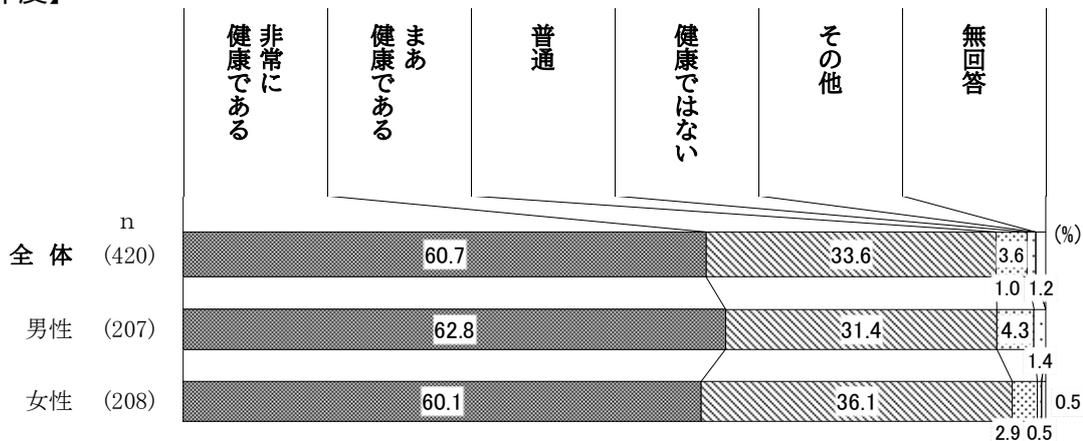
問7 あなたのお子さんのふだんの健康状態についてどう思いますか。（○は1つだけ）

<図表V-1-14> こどもの健康状態（主観的）

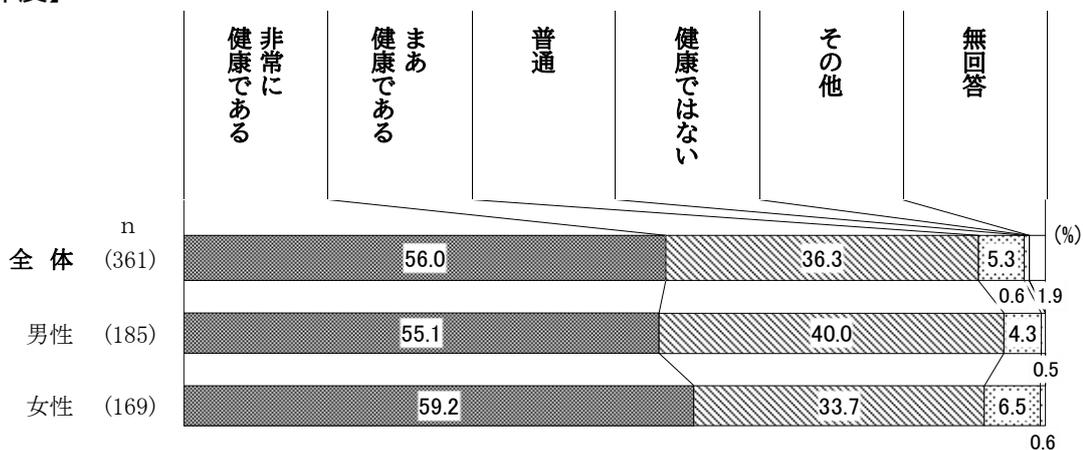
【令和5年度】



【平成29年度】



【平成25年度】

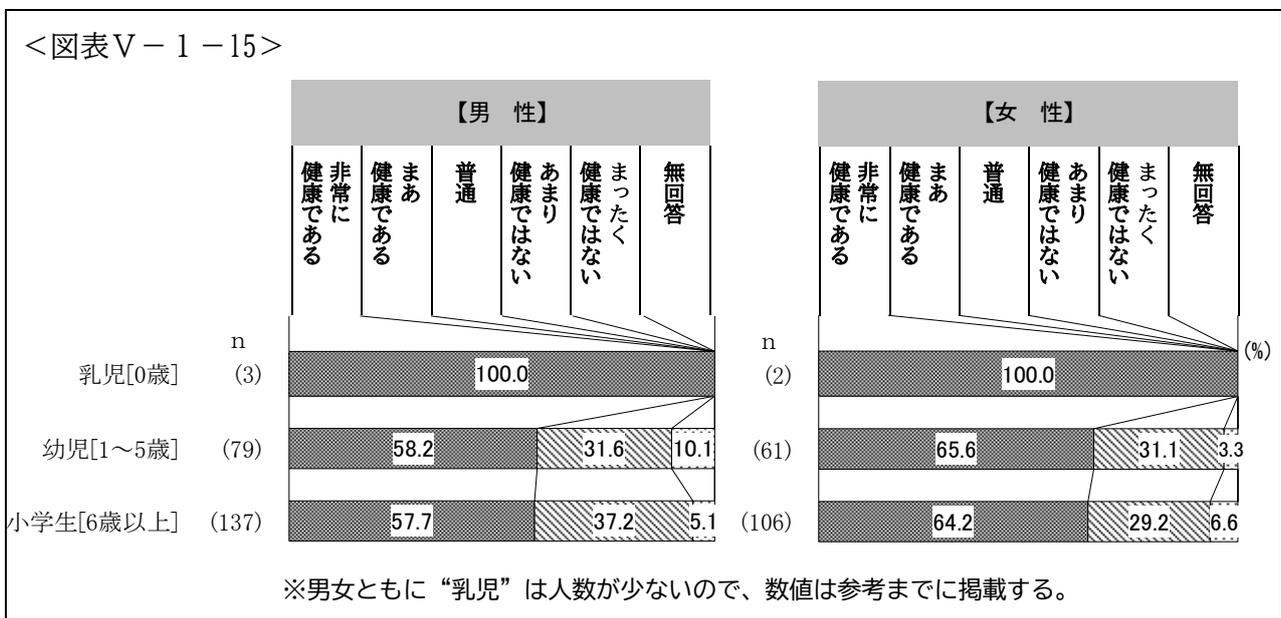


現在の健康状態（主観的）を聞いてみたところ、「非常に健康である」（61.4%）と「まあ健康である」（32.2%）を合わせた《健康である》（93.6%）は9割台半ばとなっている。「普通」（6.1%）は1割を下回っている。

性別でみると、「非常に健康である」は女性が男性より6ポイント高く、6割台半ばとなっている。

過去の調査結果と比較すると、全体では特に大きな違いはみられない。性別では、女性は平成29年度から「非常に健康である」が5ポイント増加し、「まあ健康である」が6ポイント減少している。（図表V-1-14）

【性／年齢別】



男性では「非常に健康である」は、幼児、小学生ともに約6割、《健康である》は、小学生が9割台半ばと高くなっている。女性では「非常に健康である」は、幼児、小学生が6割台半ば、《健康である》は、幼児、小学生ともに9割台半ばと高くなっている。（図表V-1-15）

2 健康づくりについて

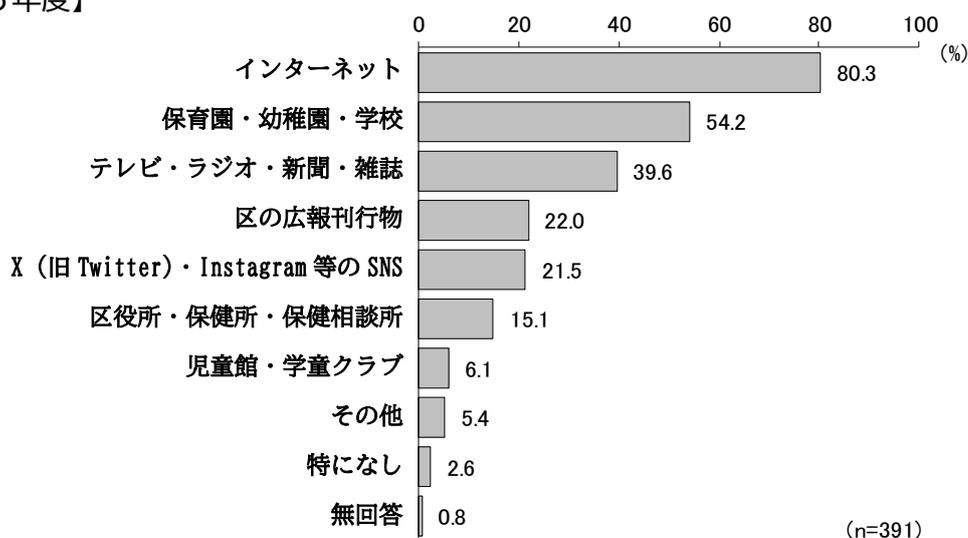
(1) こどもの健康に関する情報源

◇「インターネット」が8割で最も高い

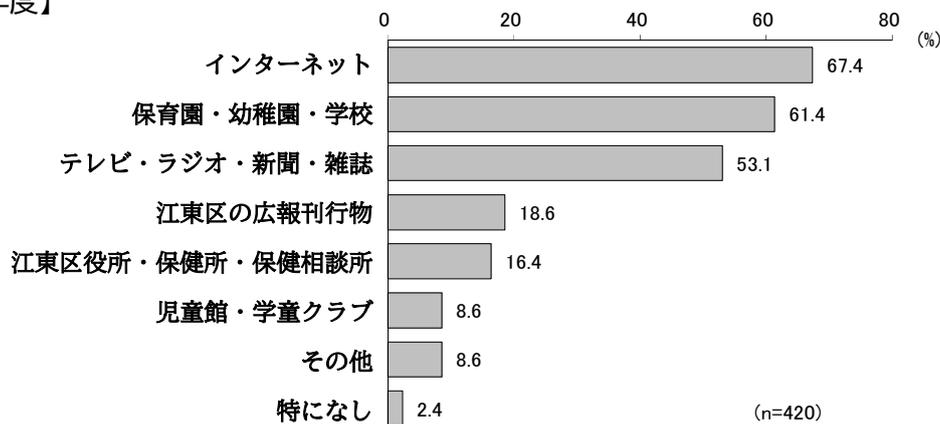
問8 あなたは、お子さんの健康に関する知識や情報をどのようなところから得ていますか。
(〇はいくつでも)

<図表V-2-1>こどもの健康に関する情報源

【令和5年度】

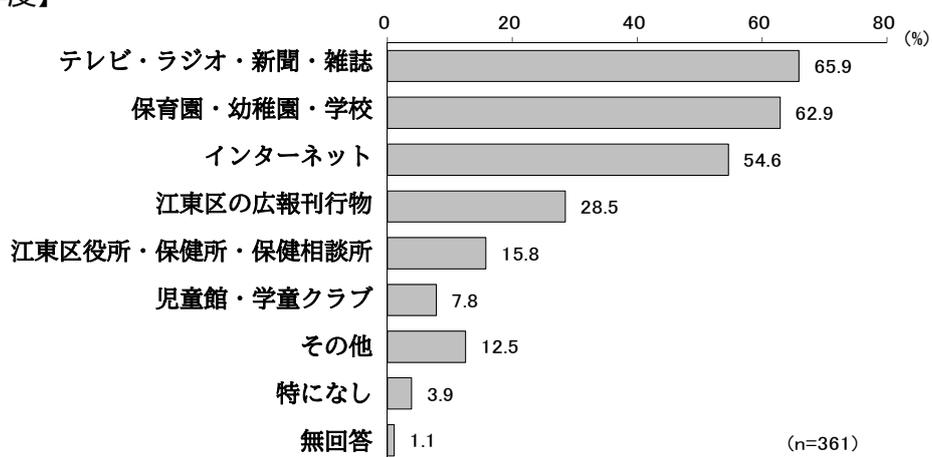


【平成29年度】



こどもの健康に関する情報源を聞いたところ、「インターネット」(80.3%)が8割で最も高く、次いで「保育園・幼稚園・学校」(54.2%)が5割台半ば、「テレビ・ラジオ・新聞・雑誌」(39.6%)が約4割となっている。

【平成25年度】



過去の調査結果と比較すると、「インターネット」が増加傾向にあり、平成25年度から25ポイント、平成29年度から12ポイント増加している。一方、「テレビ・ラジオ・新聞・雑誌」と「保育園・幼稚園・学校」は減少傾向にあり、前者は平成25年度から26ポイント、平成29年度から13ポイント、後者は平成25年度から8ポイント、平成29年度から7ポイント減少している。(図表V-2-1)

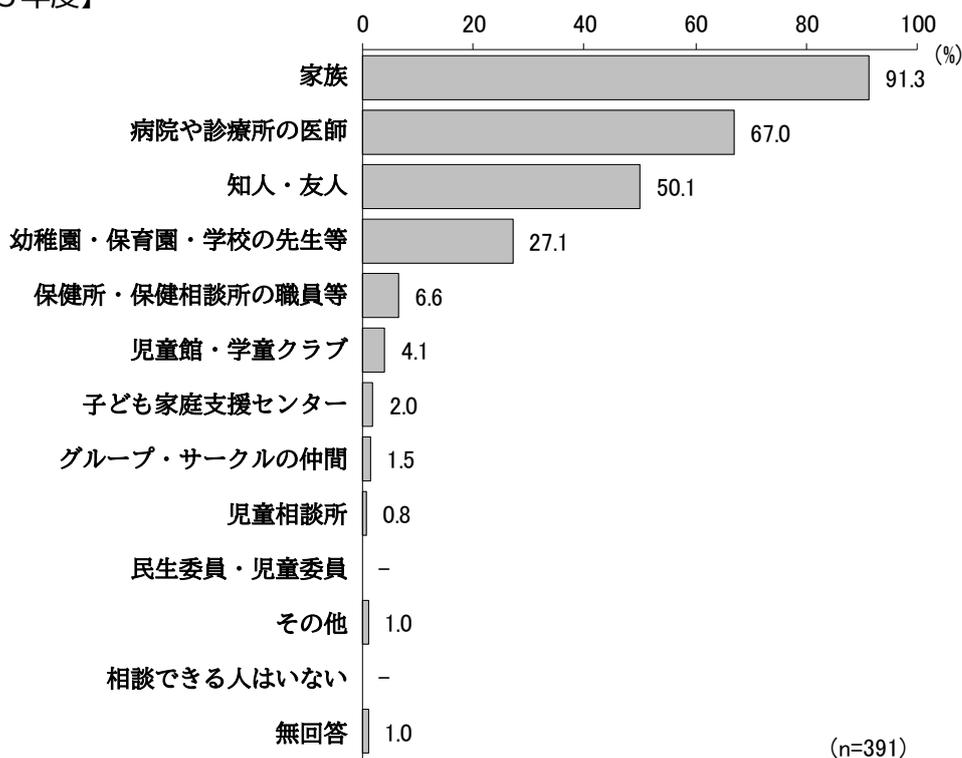
(2) こどもの健康に関する相談相手

◇「家族」が9割を超える

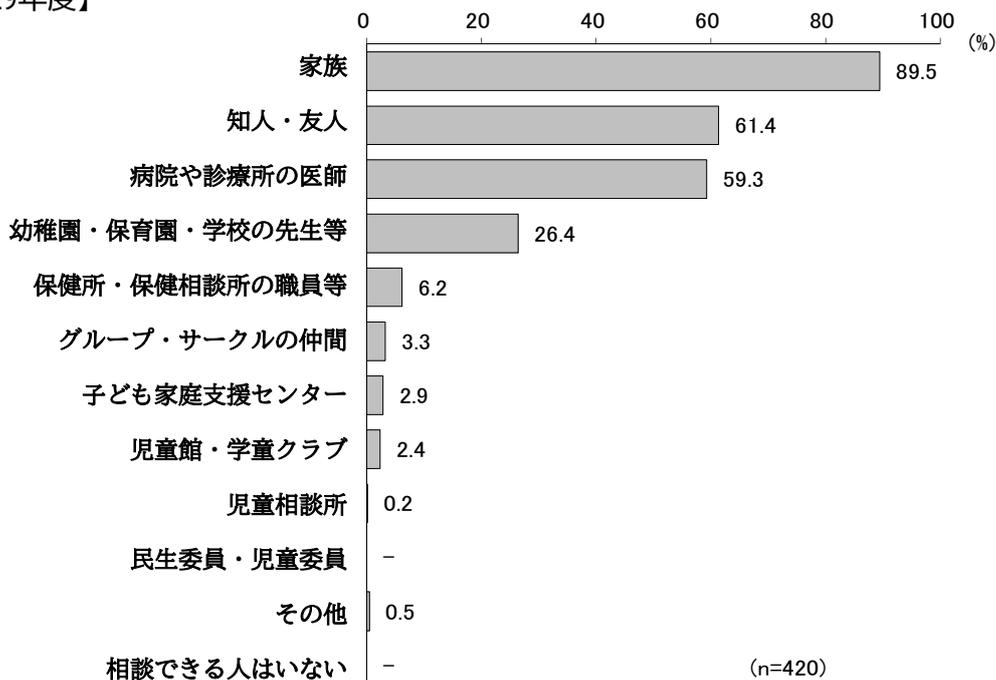
問9 お子さんの健康に関することを誰に相談しますか。(○はいくつでも)

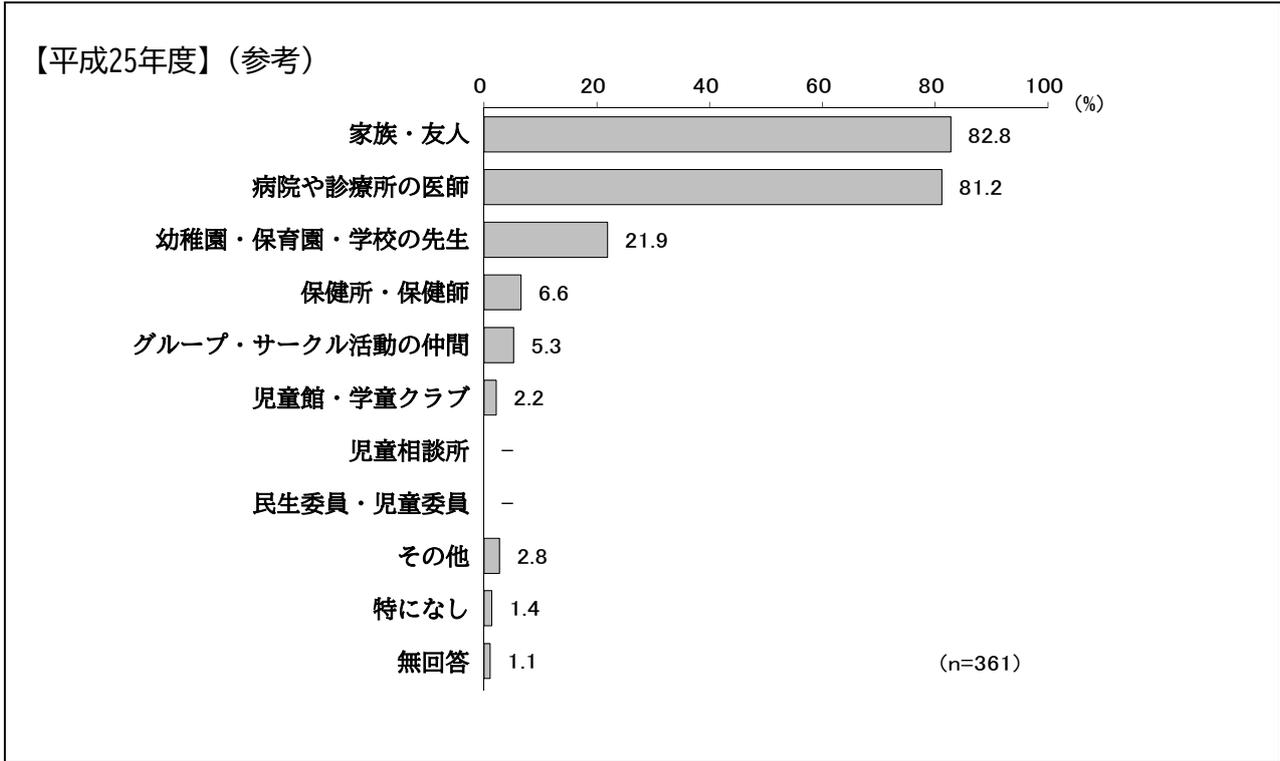
<図表V-2-2> こどもの健康に関する相談相手

【令和5年度】



【平成29年度】





こどもの健康に関する相談相手としては、「家族」（91.3%）が9割を超えて最も高く、次いで「病院や診療所の医師」（67.0%）が6割台半ば、「知人・友人」（50.1%）が5割となっている。

過去の調査結果と比較すると、「病院や診療所の医師」は平成25年度から14ポイントの減少だが、平成29年度からは7ポイントの増加となっている。「知人・友人」は平成29年度から11ポイント減少している。（図表V-2-2）

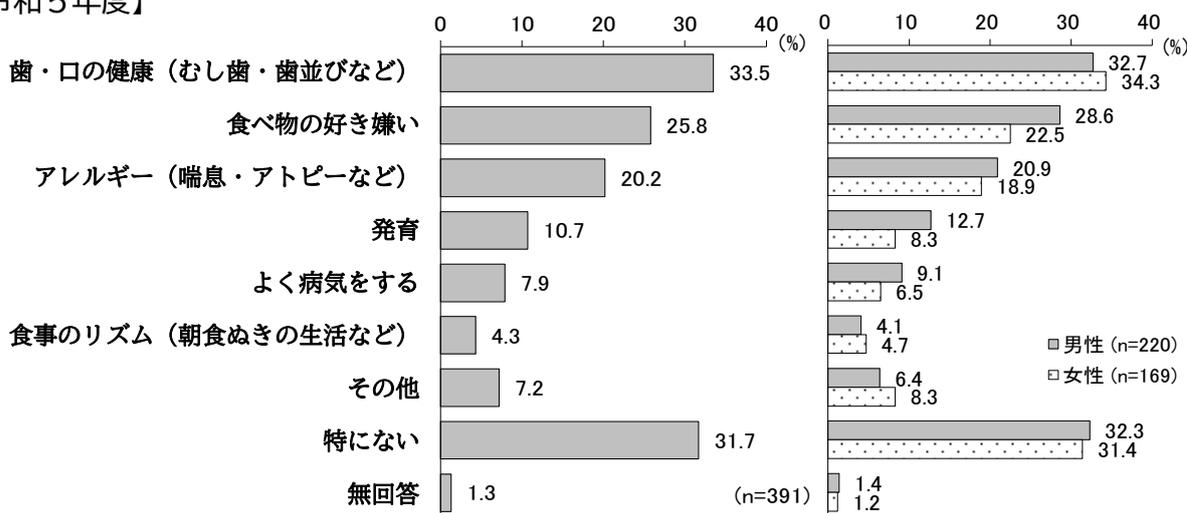
(3) こどもの健康状態についての悩み

◇「歯・口の健康（むし歯・歯並びなど）」が3割台半ば、「食べ物の好き嫌い」が2割台半ば

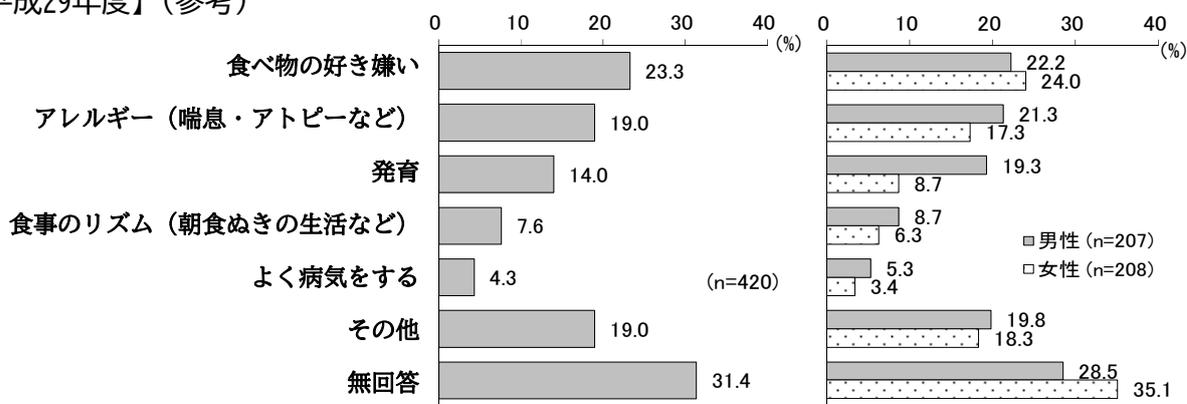
問10 あなたのお子さんの健康状態について困ったり悩んだりしていることはありますか。
(〇はいくつでも)

<図表V-2-3>こどもの健康状態についての悩み

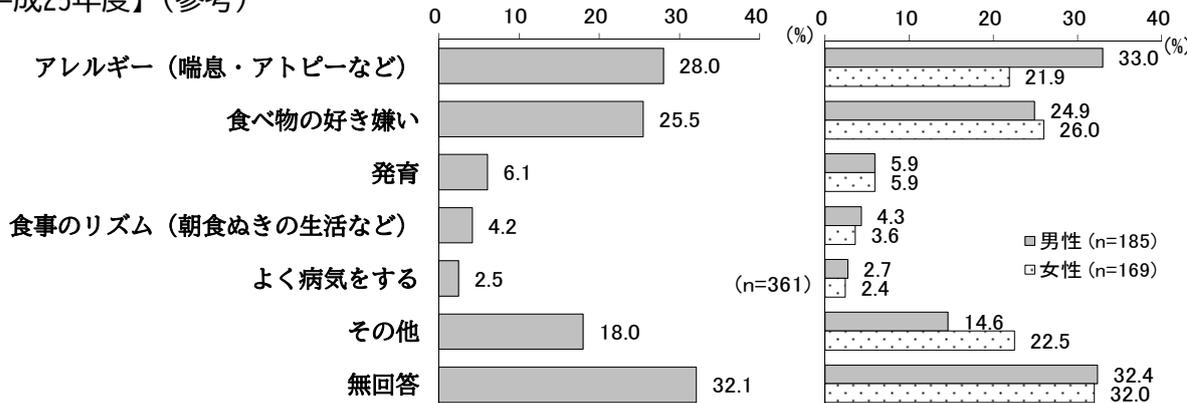
【令和5年度】



【平成29年度】(参考)



【平成25年度】(参考)



こどもの健康状態についての悩みを聞いたところ、「歯・口の健康(むし歯・歯並びなど)」(33.5%)が3割台半ばで最も高く、次いで「食べ物の好き嫌い」(25.8%)が2割台半ば、「アレルギー(喘息・アトピーなど)」(20.2%)が2割となっている。

性別でみると、「食べ物の好き嫌い」は男性が女性より6ポイント高く、約3割となっている。

過去の調査結果と比較すると、全体では平成25年度から「よく病気をする」は5ポイント増加し、「アレルギー(喘息・アトピーなど)」は7ポイント減少している。性別では、男性は平成25年度から「アレルギー(喘息・アトピーなど)」が12ポイント減少し、平成29年度から「食べ物の好き嫌い」は6ポイント増加し、「発育」は6ポイント減少している。(図表V-2-3)

【性／年齢別】

<図表V-2-4> (全項目)

			(%)									
n			よく病気を する	アレルギー (喘息・アトピー など)	食べ物の好き 嫌い	食事のリズム (朝食ぬきの 生活など)	発育	歯・口の健康 (むし歯・歯 並びなど)	その他	特 に ない	無 回 答	
性 ／ 年 齢 別	男 性	乳児[0歳]	3	-	33.3	66.7	-	33.3	-	-	-	-
		幼児[1~5歳]	79	15.2	8.9	40.5	5.1	11.4	25.3	6.3	31.6	2.5
		小学生[6歳以上]	137	5.8	27.7	21.2	3.6	13.1	38.0	6.6	32.8	0.7
	女 性	乳児[0歳]	2	-	50.0	-	-	-	50.0	-	50.0	-
		幼児[1~5歳]	61	14.8	11.5	34.4	3.3	11.5	11.5	9.8	29.5	1.6
		小学生[6歳以上]	106	1.9	22.6	16.0	5.7	6.6	47.2	7.5	32.1	0.9

※性／年齢別では、男女ともに“乳児”は人数が少ないので、数値は参考までに掲載する。

※図表の見方としては、比率の高い層を■で区別するようにした。

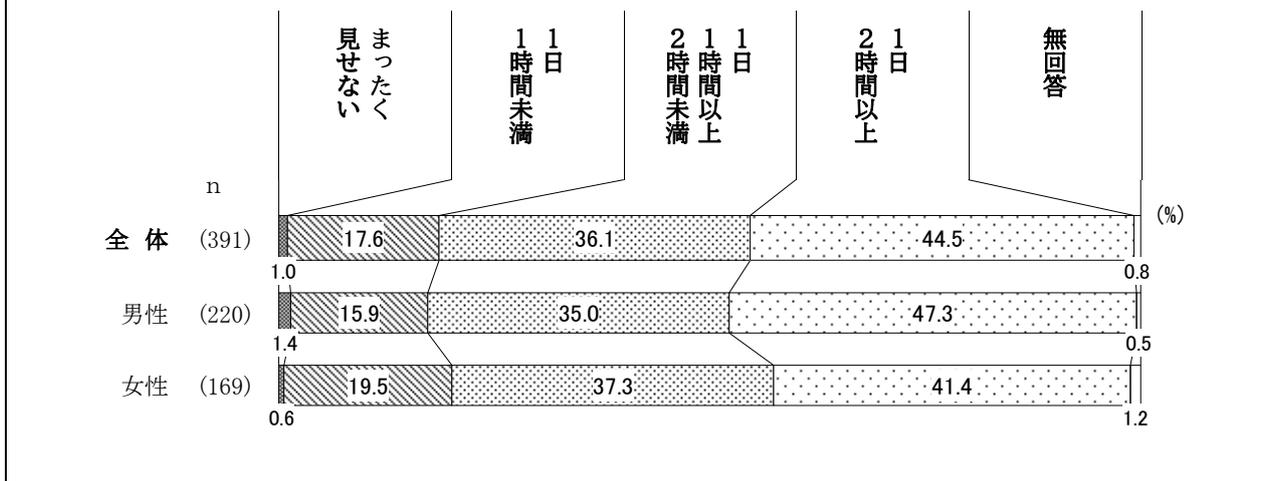
男性では「食べ物の好き嫌い」は幼児が4割、「歯・口の健康」は小学生が約4割と高くなっている。女性でも「食べ物の好き嫌い」は幼児が3割台半ば、「歯・口の健康」は小学生が約5割と高くなっている。(図表V-2-4)

(4) こどもにテレビやスマホ等を見せる頻度

◇「1日2時間以上」が4割台半ば、「1日1時間以上2時間未満」が3割台半ば

問11 お子さんにどれくらいの頻度でテレビやスマートフォンなどを見せていますか。
(○は1つだけ)

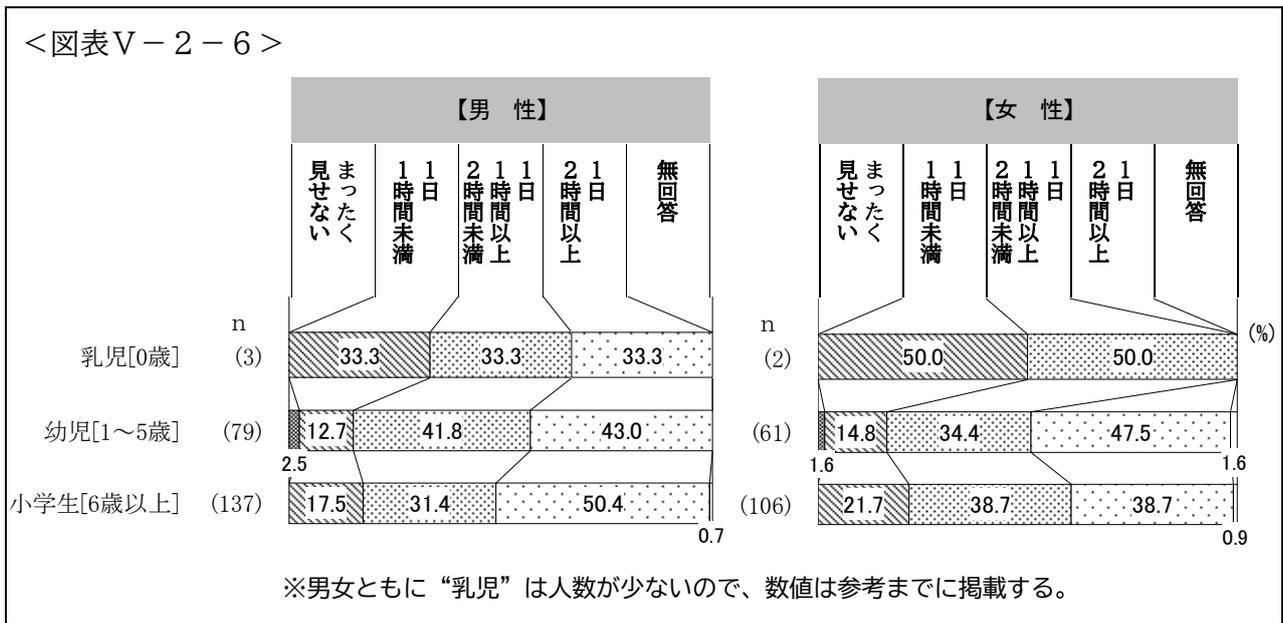
<図表V-2-5>こどもにテレビやスマホ等を見せる頻度



お子さんにどれくらいの頻度でテレビやスマートフォンなどを見せているか聞いたところ、「1日2時間以上」(44.5%)が4割台半ば、「1日1時間以上2時間未満」(36.1%)が3割台半ば、「1日1時間未満」(17.6%)が約2割となっている。

性別で見ると、「1日2時間以上」は男性が女性より5ポイント高く、約5割となっている。(図表V-2-5)

【性／年齢別】



男性では「1日2時間以上」は、小学生で5割、「1日1時間以上2時間未満」は、幼児で4割を超えている。女性では「1日2時間以上」は幼児で約5割、「1日1時間以上2時間未満」は、小学生で約4割となっている。(図表V-2-6)

3 食生活・栄養について

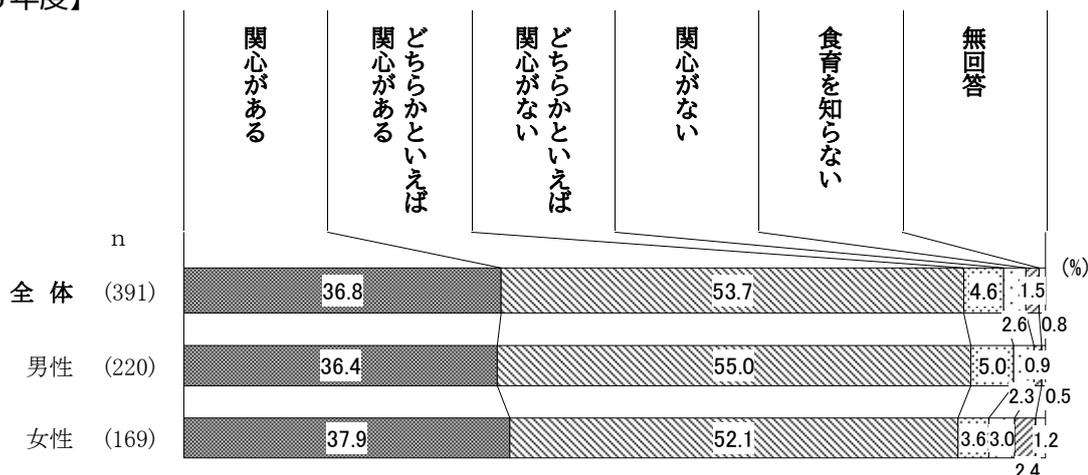
(1) 食育への関心度

◇《関心がある》は9割

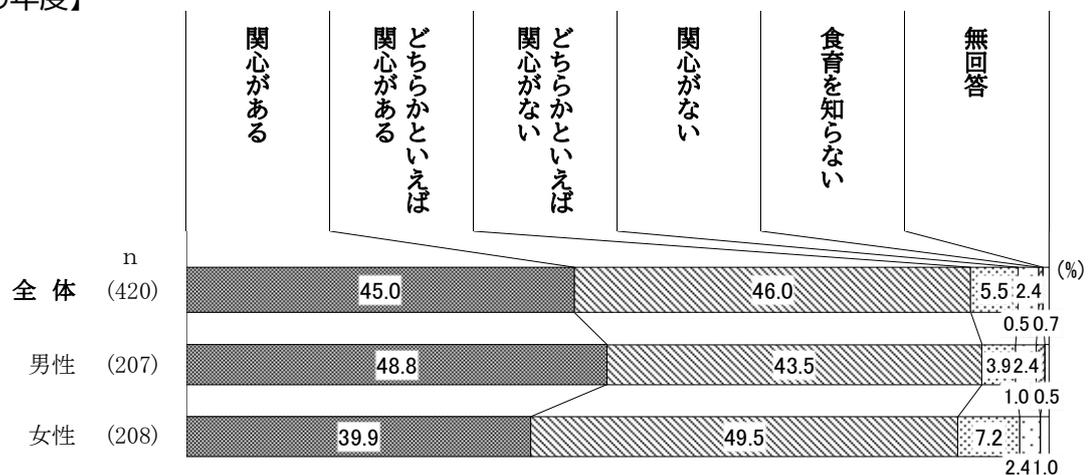
問12 あなたは、「食育」に関心がありますか。(○は1つだけ)

<図表V-3-1>食育への関心度

【令和5年度】



【平成29年度】

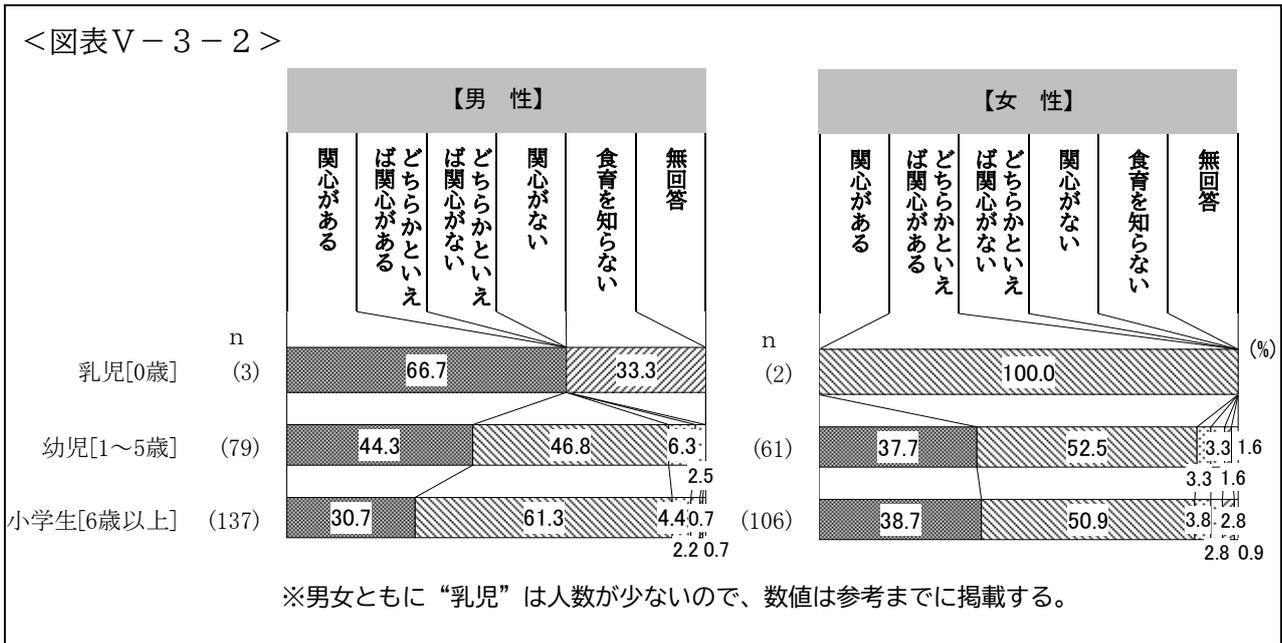


食育への関心を聞いたところ、「関心がある」(36.8%)と「どちらかといえば関心がある」(53.7%)を合わせた《関心がある》(90.5%)は9割となっている。一方、「どちらかといえば関心がない」(4.6%)と「関心がない」(2.6%)を合わせた《関心がない》(7.2%)は1割を下回っている。

性別では、特に大きな違いはみられない。

平成29年度の調査結果と比較すると、「関心がある」は全体で8ポイント、男性で12ポイント減少し、「どちらかといえば関心がある」は全体で7ポイント、男性で11ポイント増加している。(図表V-3-1)

【性／年齢別】



男性では《関心がある》は、幼児、小学生ともに9割を超えている。女性では《関心がある》は、9割前後となっている。(図表V-3-2)

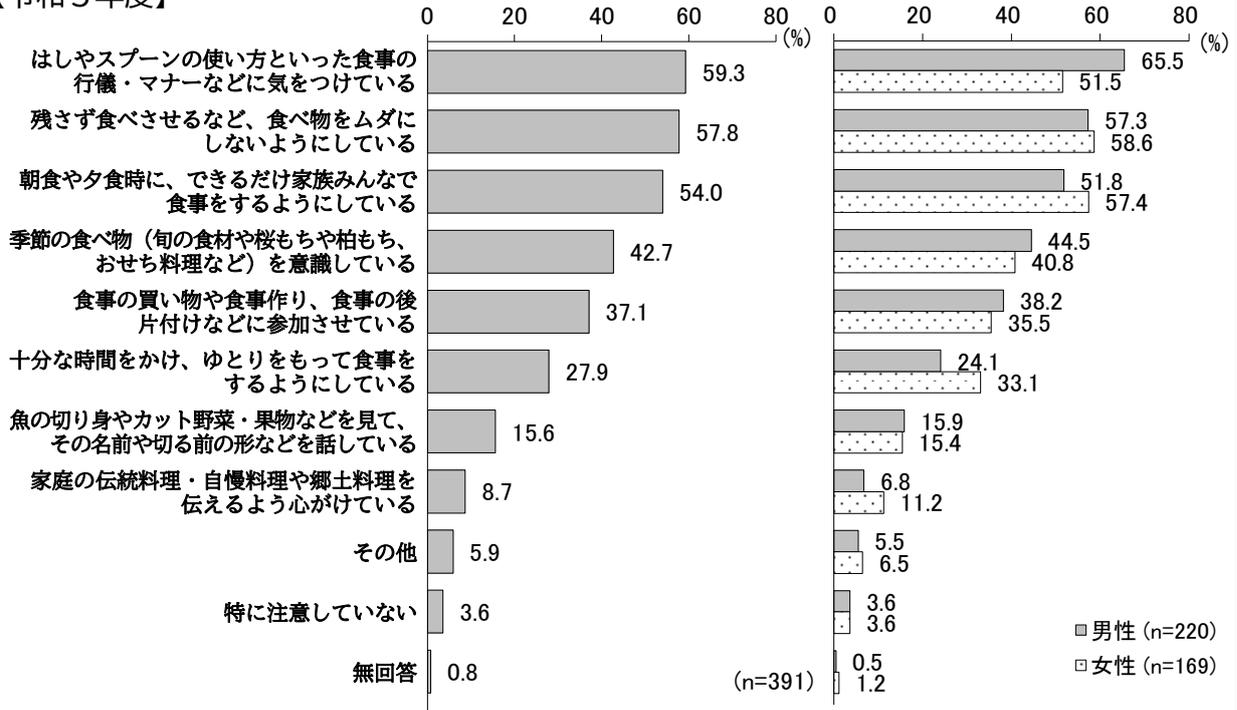
(2) こどもの食生活で心がけていること

◇「食事の行儀・マナー」と「食べ物をムダにしない」が約6割

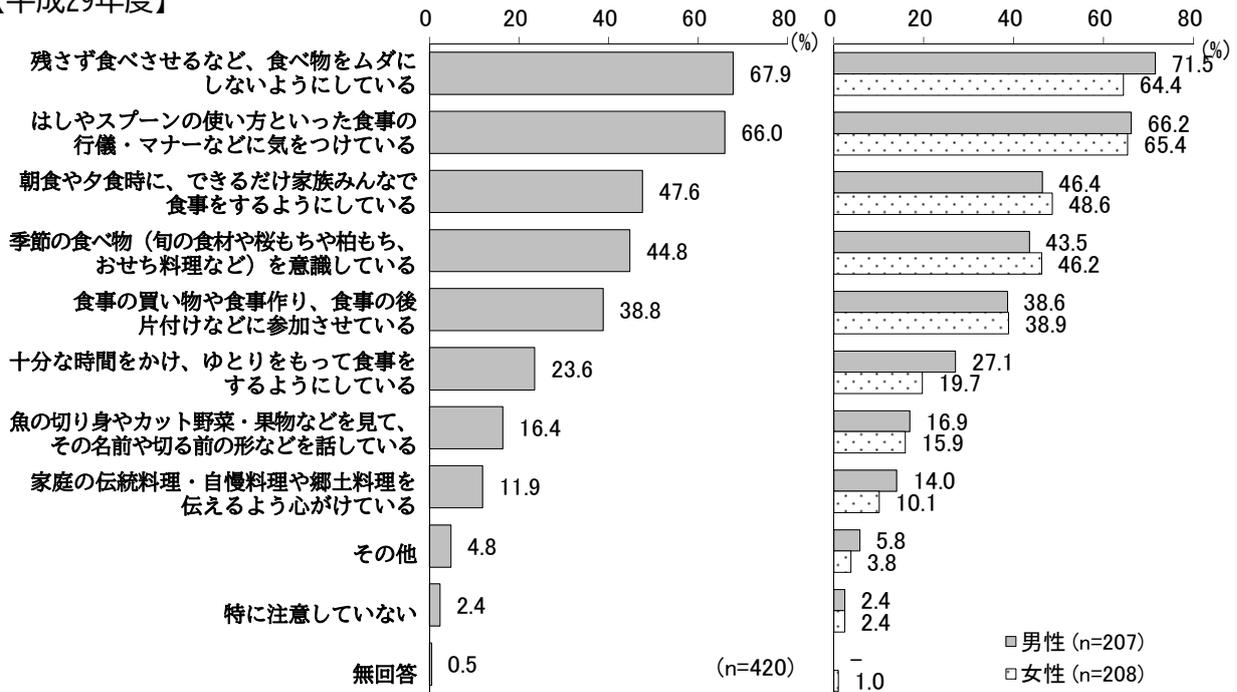
問13 あなたが、お子さんの食生活で心がけていることを、次の中から選んでください。
(○はいくつでも)

<図表V-3-3>こどもの食生活で心がけていること

【令和5年度】



【平成29年度】



こどもの食生活で心がけていることとしては、「はしやスプーンの使い方といった食事の行儀・マナーなどに気をつけている」(59.3%)と「残さず食べさせるなど、食べ物をムダにしないようにしている」(57.8%)が約6割で高く、次いで「朝食や夕食時に、できるだけ家族みんなで食事をするようにしている」(54.0%)が5割台半ば、「季節の食べ物(旬の食材や桜もちや柏もち、おせち料理など)を意識している」(42.7%)が4割を超えている。

性別でみると、「はしやスプーンの使い方といった食事の行儀・マナーなどに気をつけている」は男性が女性より14ポイント高く、6割台半ばとなっている。また、女性は男性より「朝食や夕食時に、できるだけ家族みんなで食事をするようにしている」は5ポイント高く、約6割、「十分な時間をかけ、ゆとりをもって食事をするようにしている」は9ポイント高く、3割台半ばとなっている。

平成29年度の調査と比較すると、全体では「朝食や夕食時に、できるだけ家族みんなで食事をするようにしている」が6ポイント増加し、「残さず食べさせるなど、食べ物をムダにしないようにしている」が10ポイント、「はしやスプーンの使い方といった食事の行儀・マナーなどに気をつけている」が6ポイント減少している。性別では、男性は「朝食や夕食時に、できるだけ家族みんなで食事をするようにしている」が5ポイント増加し、「残さず食べさせるなど、食べ物をムダにしないようにしている」が14ポイント減少している。女性は「十分な時間をかけ、ゆとりをもって食事をするようにしている」が13ポイント、「朝食や夕食時に、できるだけ家族みんなで食事をするようにしている」が8ポイント増加し、「はしやスプーンの使い方といった食事の行儀・マナーなどに気をつけている」が13ポイント、「残さず食べさせるなど、食べ物をムダにしないようにしている」と「季節の食べ物(旬の食材や桜もちや柏もち、おせち料理など)を意識している」が5ポイント、それぞれ減少している。(図表V-3-3)

【性／年齢別】

<図表V-3-4> (全項目)

			(%)															
		n	十分な時間をかけ、ゆとりをもって食事をするようにしている	朝食や夕食時に、できるだけ家族みんなで食事をするようにしている	識している	季節の食べ物(旬の食材や桜もちや柏もち、おせち料理など)を意識している	家庭の伝統料理・自慢料理や郷土料理を伝えるような心がけている	食の行儀・マナーなどに気をつけている	はしやスプーンの使い方などについて	魚の切り身やカット野菜・果物などを話している	食の行儀・マナーなどに気をつけている	食の行儀・マナーなどに気をつけている	食の行儀・マナーなどに気をつけている	食の行儀・マナーなどに気をつけている	その他	特に注意していない	無回答	
性／年齢別	男性	乳児[0歳]	3	-	33.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	66.7	-	
		幼児[1~5歳]	79	34.2	55.7	40.5	5.1	57.0	19.0	34.2	45.6	10.1	2.5	-	-	-	-	
		小学生[6歳以上]	137	18.2	49.6	48.2	8.0	72.3	14.6	41.6	65.7	2.9	2.9	0.7	-	-	-	
	女性	乳児[0歳]	2	100.0	50.0	-	-	-	-	50.0	-	-	-	-	-	-	-	-
		幼児[1~5歳]	61	44.3	52.5	36.1	1.6	34.4	18.0	26.2	44.3	4.9	4.9	1.6	-	-	-	
		小学生[6歳以上]	106	25.5	60.4	44.3	17.0	62.3	13.2	41.5	67.9	7.5	2.8	0.9	-	-	-	

※性／年齢別では、男女ともに“乳児”は人数が少ないので、数値は参考までに掲載する。
 ※図表の見方としては、最も比率の高い層を [] で区別するようにした。

男女ともに小学生で幼児より高い項目が多く、「残さず食べさせるなど、食べ物をムダにしないようにしている」は男性で6割台半ば、女性で約7割と高くなっている。「はしやスプーンの使い方といった食の行儀・マナーなどに気をつけている」は男性で7割を超え、女性で6割を超えている。幼児で小学生より高い項目としては、「十分な時間をかけ、ゆとりをもって食事をするようにしている」は男性で3割台半ば、女性で4割台半ばと高くなっている。また、「朝食や夕食時に、できるだけ家族みんなで食事をするようにしている」は、男性が幼児で5割台半ば、女性が小学生で6割と高くなっている。(図表V-3-4)

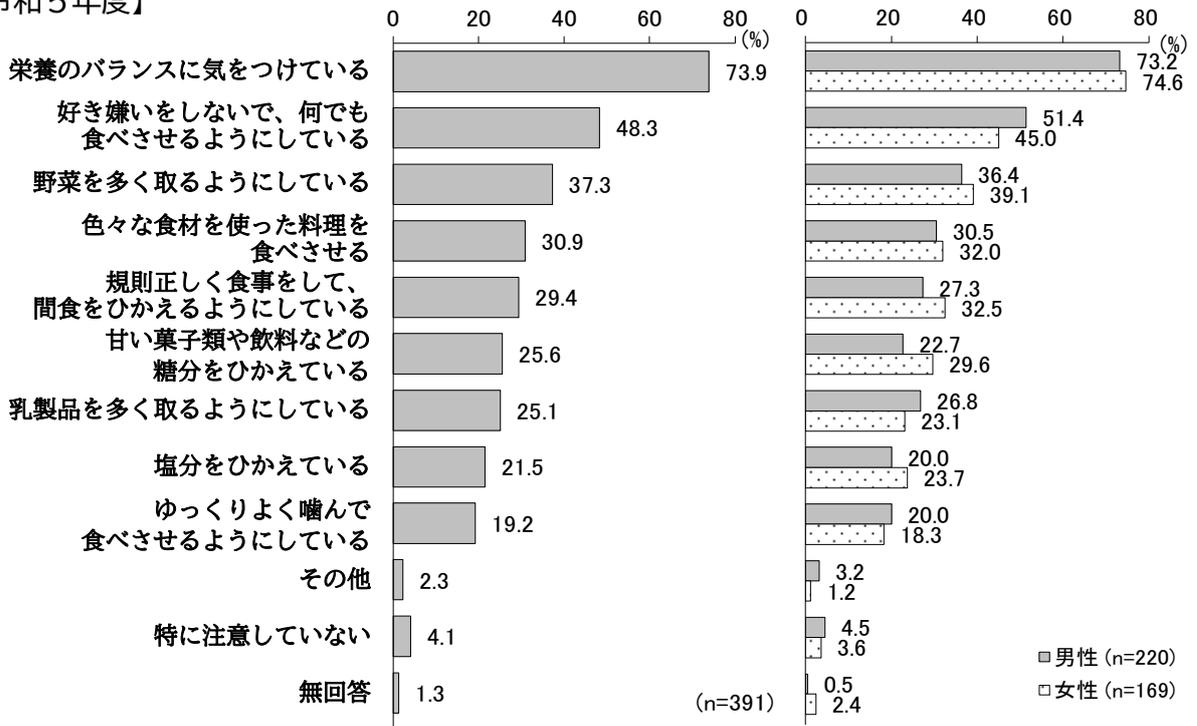
(3) こどもの食事の摂取で心がけていること

◇「栄養のバランスに気をつけている」が7割台半ばで最も高い

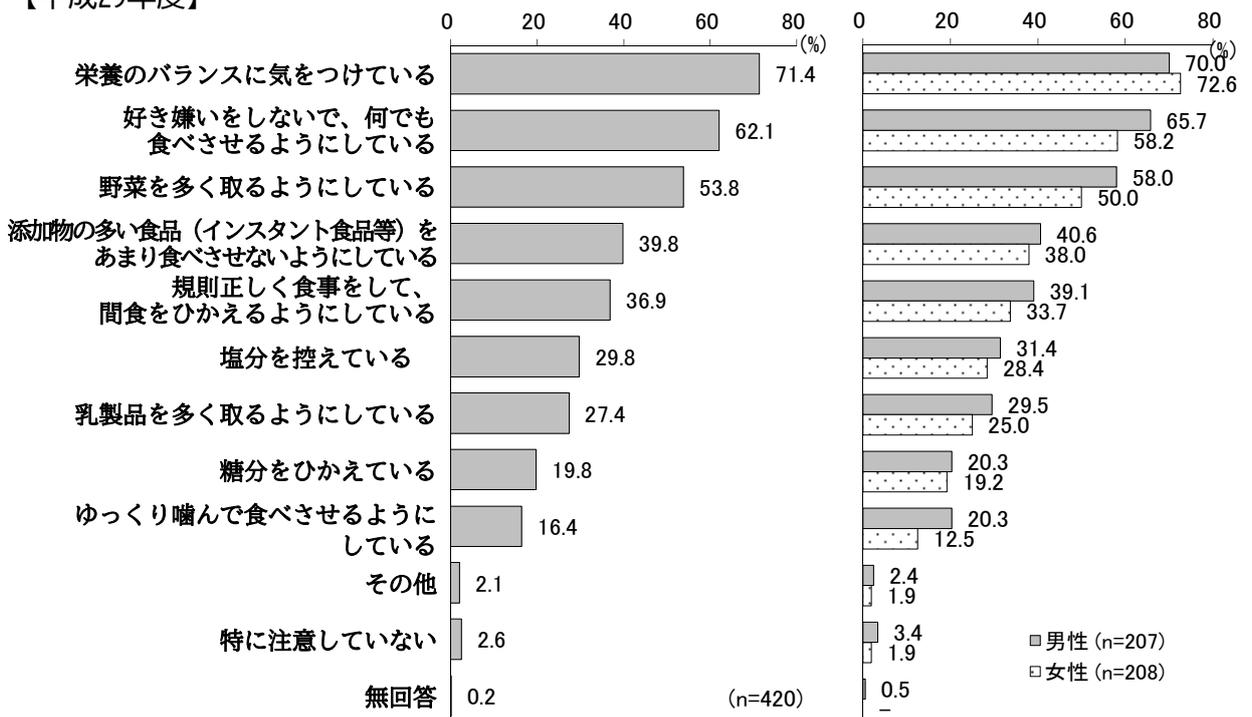
問14 あなたが、お子さんの食事の摂取で心がけていることを、次の中から選んでください。
(○はいくつでも)

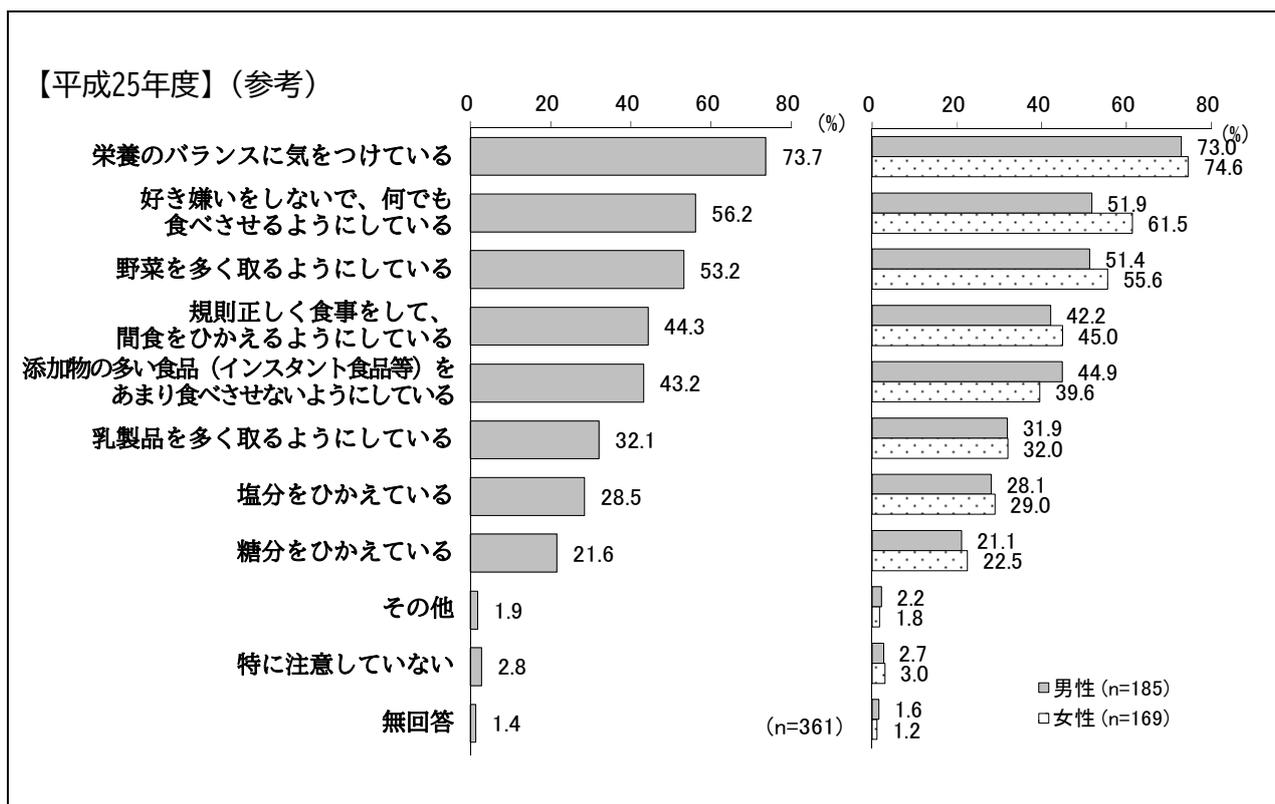
<図表V-3-5> こどもの食事の摂取で心がけていること

【令和5年度】



【平成29年度】





こどもの食事の摂取で心がけていることを聞いたところ、「栄養のバランスに気をつけている」(73.9%)が7割台半ばで最も高く、次いで「好き嫌いをしないで、何でも食べさせるようにしている」(48.3%)が約5割、「野菜を多く取るようにしている」(37.3%)が約4割となっている。

性別では、「好き嫌いをしないで、何でも食べさせるようにしている」は男性が女性より6ポイント高く、5割を超えている。「甘い菓子類や飲料などの糖分をひかえている」でも女性が男性より6ポイント高く、約3割となっている。「規則正しく食事をして、間食をひかえるようにしている」は女性が男性より5ポイント高く、3割を超えている。

過去の調査結果と比較すると、全体では平成29年度から「野菜を多く取るようにしている」は16ポイント、「好き嫌いをしないで、何でも食べさせるようにしている」は13ポイント、「塩分をひかえている」は8ポイント、「規則正しく食事をして、間食をひかえるようにしている」は7ポイント、それぞれ減少している。性別では「好き嫌いをしないで、何でも食べさせるようにしている」は男性で14ポイント、女性で13ポイント、「野菜を多く取るようにしている」は男性で21ポイント、女性で10ポイント、それぞれ減少している。また、男性では「規則正しく食事をして、間食をひかえるようにしている」と「塩分をひかえている」で11ポイント減少している。(図表V-3-5)

【性／年齢別】

<図表V-3-6>

		n	(%)												
			栄養のバランスに気をつけている	好き嫌いをしないで、何でも食べさせるようにしている	規則正しく食事をして、間食をひかえるようにしている	ゆつくりよく噛んで食べさせるようにしている	色々な食材を使った料理を食べさせる	塩分をひかえている	甘い菓子類や飲料などの糖分をひかえている	乳製品を多く取るようにしている	野菜を多く取るようにしている	その他	特に注意していない	無回答	
性／年齢別	男性	乳児[0歳]	3	100.0	-	33.3	-	-	33.3	33.3	-	33.3	-	-	-
		幼児[1～5歳]	79	65.8	49.4	31.6	19.0	27.8	25.3	27.8	27.8	29.1	5.1	5.1	-
		小学生[6歳以上]	137	76.6	54.0	24.8	21.2	32.8	16.8	19.7	27.0	40.1	2.2	4.4	0.7
	女性	乳児[0歳]	2	100.0	50.0	-	50.0	50.0	50.0	50.0	-	50.0	-	-	-
		幼児[1～5歳]	61	72.1	37.7	23.0	16.4	23.0	26.2	29.5	36.1	32.8	-	3.3	4.9
		小学生[6歳以上]	106	75.5	49.1	38.7	18.9	36.8	21.7	29.2	16.0	42.5	1.9	3.8	0.9

※性／年齢別では、男女ともに「乳児」は人数が少ないので、数値は参考までに掲載する。
 ※図表の見方としては、比率の高い層を■で区別するようにした。

男性では、小学生は「栄養のバランスに気をつけている」が7割台半ば、「好き嫌いをしないで、何でも食べさせるようにしている」が5割台半ば、「野菜を多くとるようにしている」が4割と高くなっている。

女性でも、小学生は「栄養のバランスに気をつけている」が7割台半ば、「好き嫌いをしないで、何でも食べさせるようにしている」が約5割、「野菜を多くとるようにしている」が4割を超えて高くなっている。(図表V-3-6)

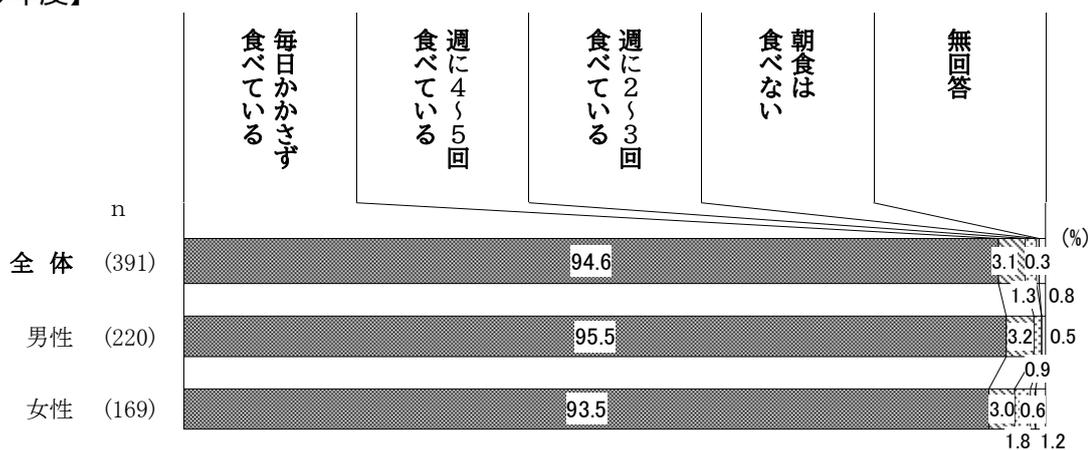
(4) こどもの朝食の摂取状況

◇「毎食かかさず食べている」は9割台半ばを占める

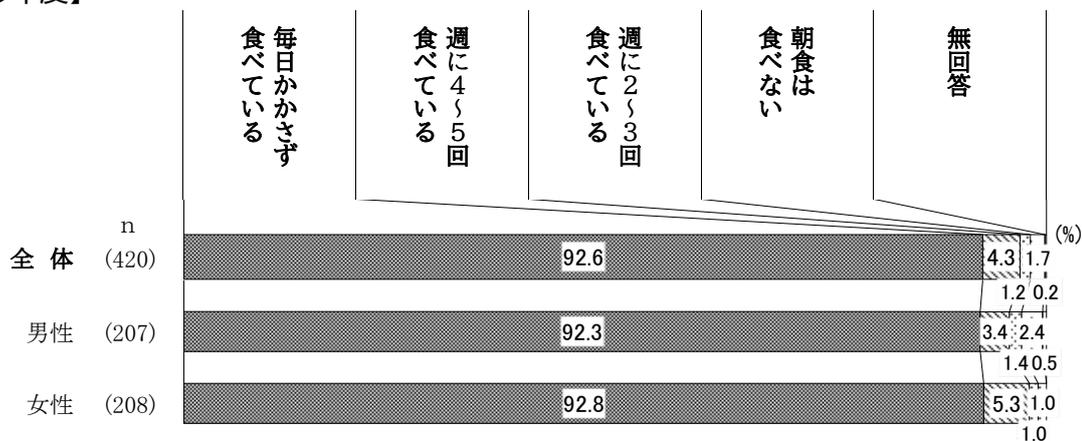
問15 お子さんは、ふだんきちんと朝食を食べていますか。(○は1つだけ)

<図表V-3-7> こどもの朝食の摂取状況

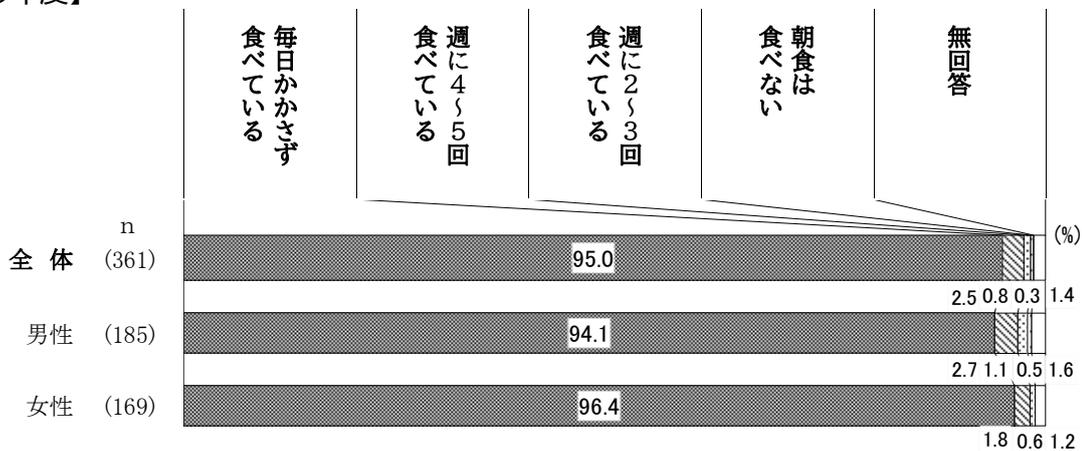
【令和5年度】



【平成29年度】



【平成29年度】

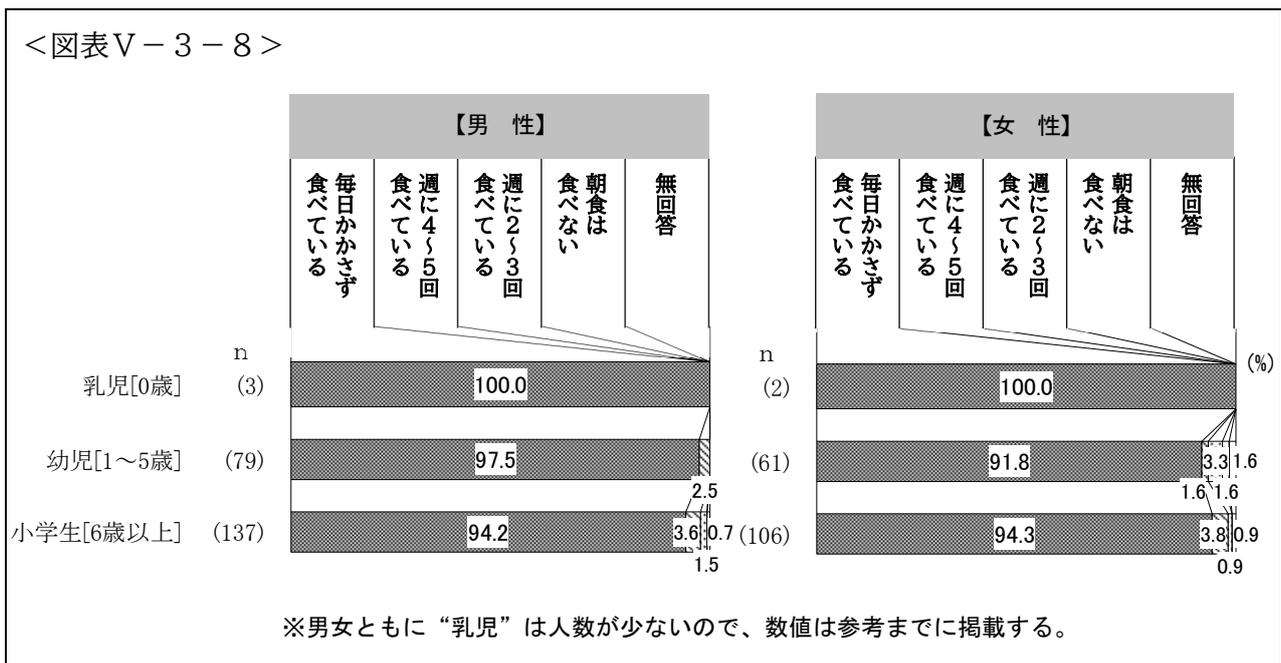


こどもの朝食の摂取状況を聞いたところ、「毎日かかさず食べている」(94.6%)は9割台半ばを占めている。「週に4～5回食べている」(3.1%)、「週に2～3回食べている」(1.3%)、「朝食は食べない」(0.3%)は、いずれも1割を下回っている。

性別では、大きな違いはみられない。

過去の調査結果との比較では、全体、性別ともに大きな違いはみられない。(図表V-3-7)

【性／年齢別】



男性では「毎日かかさず食べている」は、幼児がほぼ全数、小学生が9割台半ばとなっている。女性では「毎日かかさず食べている」は、小学生が9割台半ば、幼児が9割を超えている。(図表V-3-8)

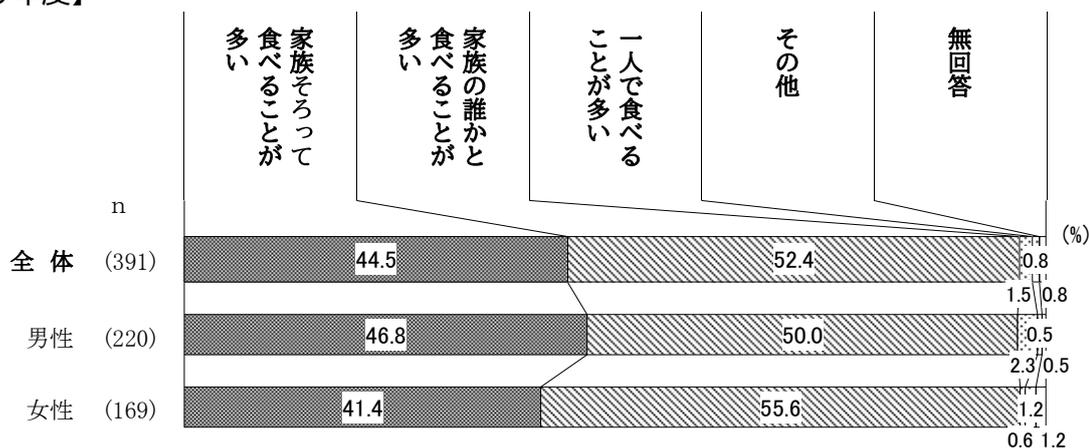
(5) 家族と一緒に食事

◇《家族と食事する》が9割台半ばを占める

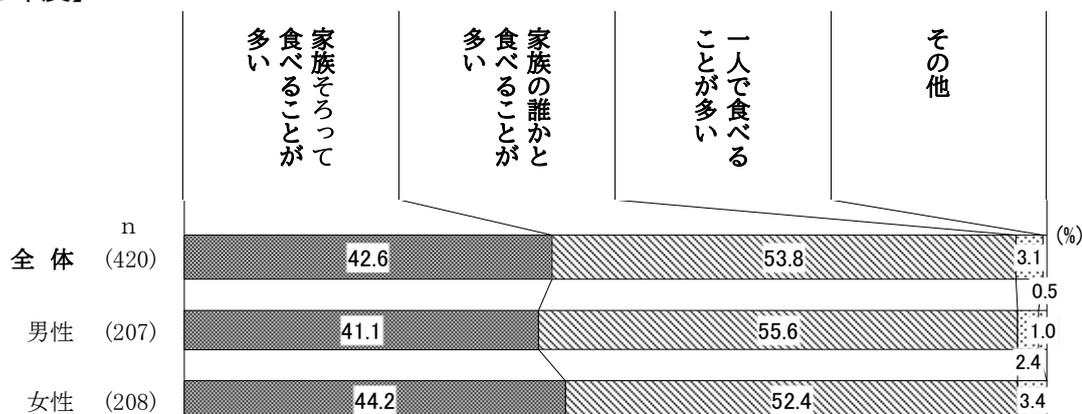
問16 お子さんは、ふだん家では家族と一緒に食事をしていきますか。(○は1つだけ)

<図表V-3-9>家族と一緒に食事

【令和5年度】



【平成29年度】



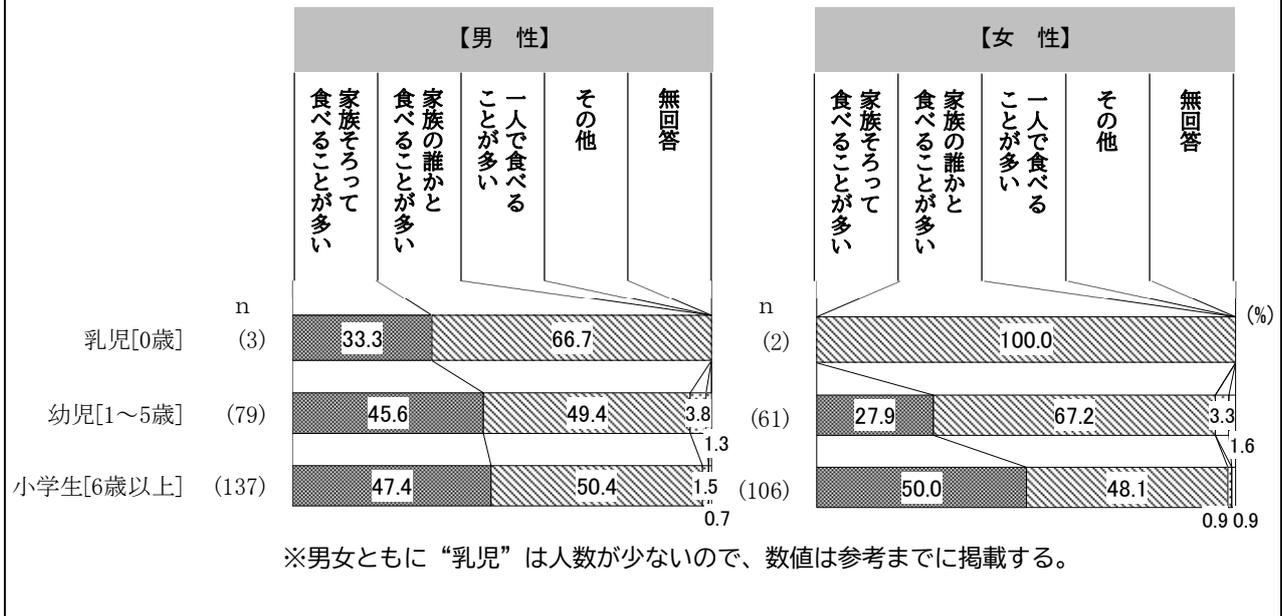
食事を「家族そろって食えることが多い」(44.5%)と「家族の誰かと食えることが多い」(52.4%)を合わせた《家族と食事する》(96.9%)は9割台半ばとなっている。

性別で見ると、「家族そろって食えることが多い」は男性が女性より5ポイント高く、4割台半ば、「家族の誰かと食えることが多い」は女性が男性より5ポイント高く、5割台半ばとなっている。

平成29年度の調査結果と比較すると、全体では大きな違いはみられない。性別では、男性は「家族そろって食えることが多い」が5ポイント増加、「家族の誰かと食えることが多い」が5ポイント減少している。(図表V-3-9)

【性／年齢別】

<図表V-3-10>



女性の幼児は「家族の誰かと食ることが多い」が約7割と高く、他では「家族そろって食ることが多い」と「家族の誰かと食ることが多い」でほぼ二分している。また、男女とも小学生では《家族と食事する》が、ほぼ全数となっている。(図表V-3-10)

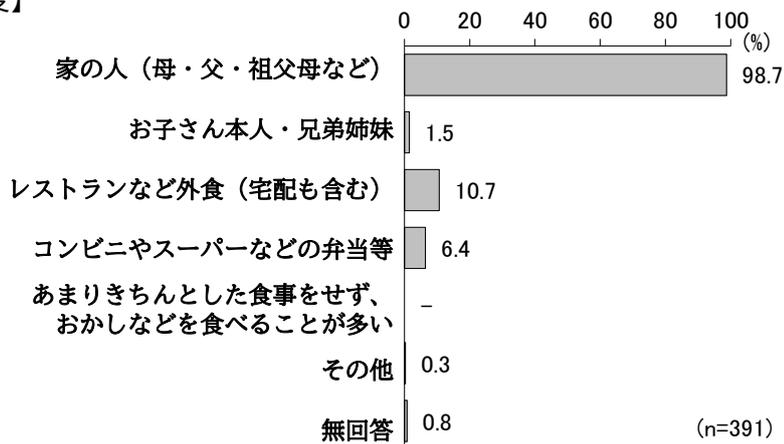
(6) こどもの食事の提供者

◇「家の人（母・父・祖父母など）」がほぼ全員

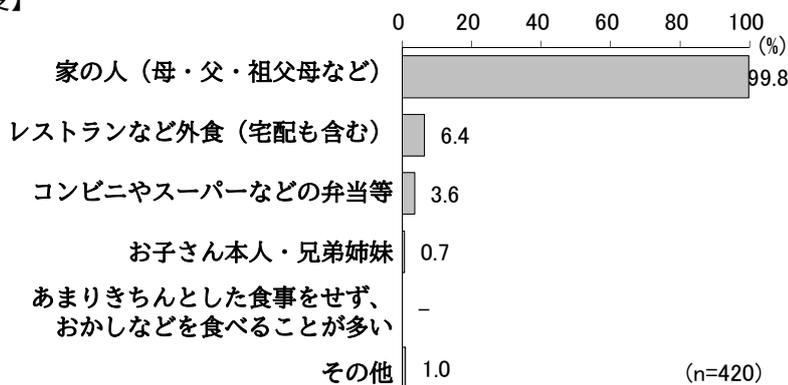
問17 ふだん、お子さんの食事を主に作る（提供する）のは誰ですか。（○は3つまで）

<図表V-3-11>こどもの食事の提供者

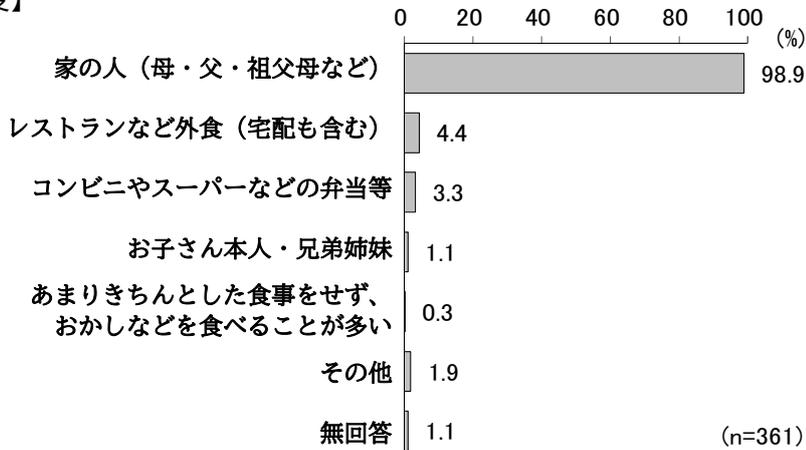
【令和5年度】



【平成29年度】



【平成25年度】



こどもの食事の提供者を聞いたところ、「家の人（母・父・祖父母など）」（98.7%）がほぼ全数となっている。

過去の調査結果と比較すると、「レストランなど外食（宅配も含む）」は平成25年度から6ポイント高く、1割となっている。（図表V-3-11）

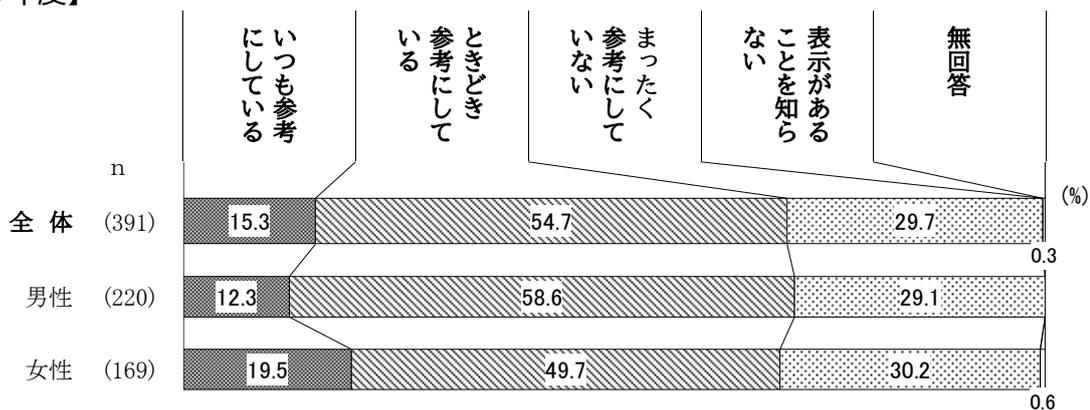
(7) 栄養成分表示を参考にしている程度

◇《参考にしている》は7割、一方、「まったく参考にしていない」は約3割

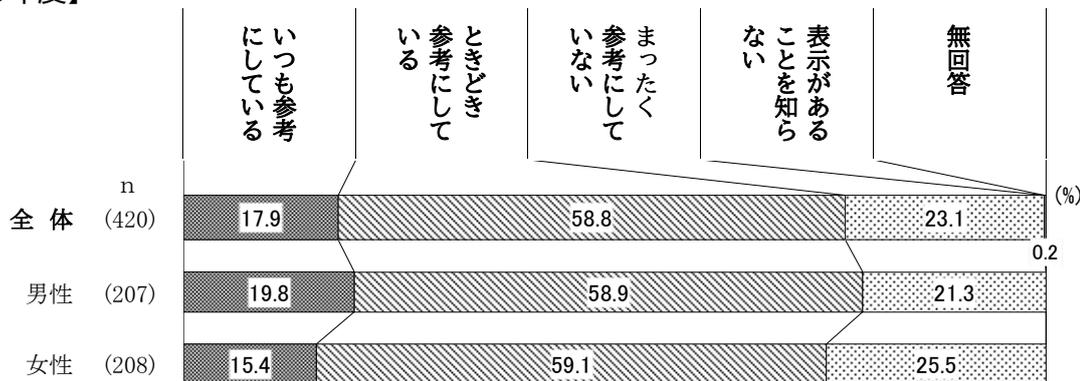
問18 あなたは、飲食店や食品売場等で栄養成分表示を参考にしてメニューや食品を選びますか。(○は1つだけ)

<図表V-3-12> 栄養成分表示を参考にしている程度

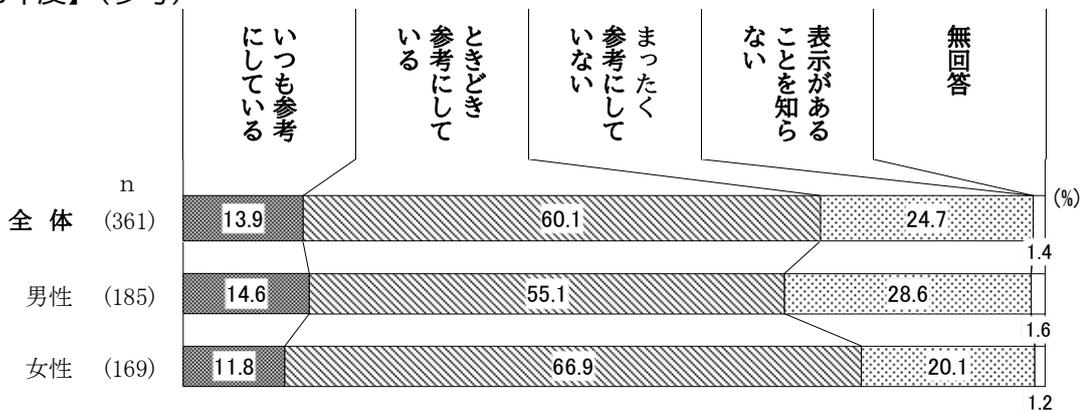
【令和5年度】



【平成29年度】



【平成25年度】(参考)



栄養成分表示を「いつも参考にしている」(15.3%)と「ときどき参考にしている」(54.7%)を合わせた《参考にしている》(70.0%)は7割となっている。一方、「まったく参考にしていない」(29.7%)は約3割となっている。

性別で見ると、「いつも参考にしている」は女性が男性より7ポイント高く、約2割、「ときどき参考にしている」は男性が女性より8ポイント高く、約6割となっている。

過去の調査結果と比較すると、全体では平成29年度から《参考にしている》が6ポイント減少し、「まったく参考にしていない」が6ポイント増加している。性別では男性は、平成29年度から《参考にしている》が7ポイント減少し、「まったく参考にしていない」が7ポイント増加している。女性では《参考にしている》が平成25年度から9ポイント、平成29年度から5ポイント減の減少傾向にあり、「まったく参考にしていない」は平成25年度から10ポイント増加している。(図表V-3-12)

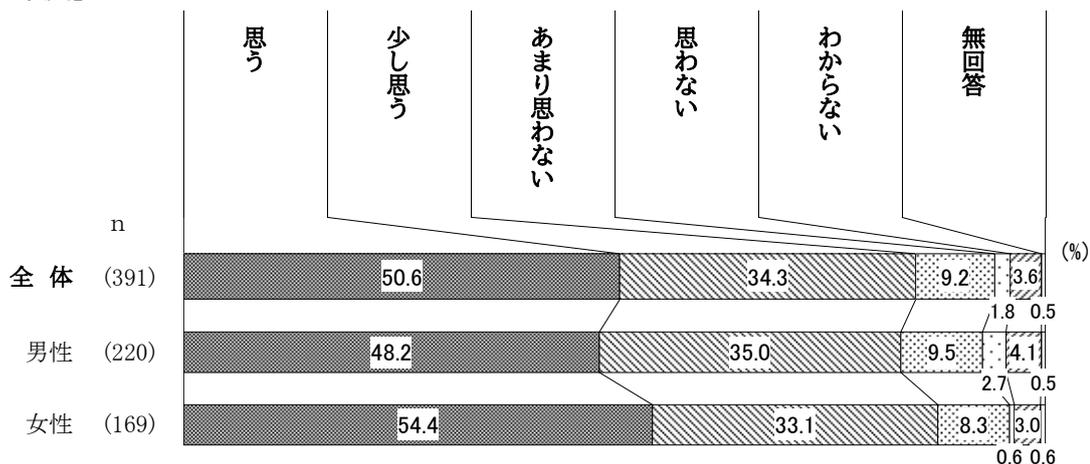
(8) 家庭におけるこどもの健康的な食習慣の形成

◇《思う》が8割台半ば

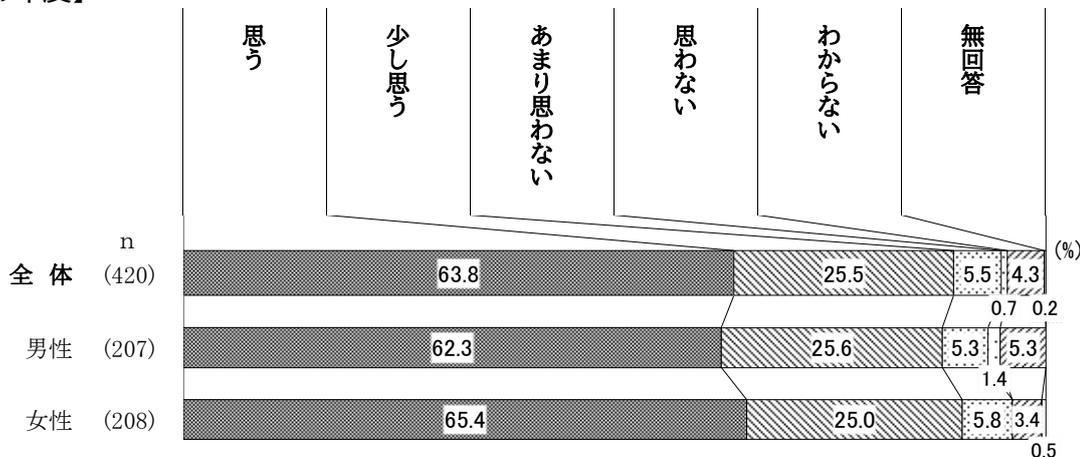
問19 家庭での食事や生活を通じて、お子さんが健康的な食習慣を身につけていくことができると思いますか。(〇は1つだけ)

<図表V-3-13>家庭におけるこどもの健康的な食習慣の形成

【令和5年度】



【平成29年度】



家庭におけるこどもの健康的な食習慣の形成ができると思うか聞いたところ、「思う」(50.6%)と「少し思う」(34.3%)を合わせた《思う》(84.9%)は8割台半ばとなっている。

性別でみると、「思う」は女性が男性より6ポイント高く、5割台半ばとなっている。

平成29年度の調査結果と比較すると、全体、男女とも「思う」が大きく減少し、全体は13ポイント、男性は14ポイント、女性は11ポイント減となっている。(図表V-3-13)

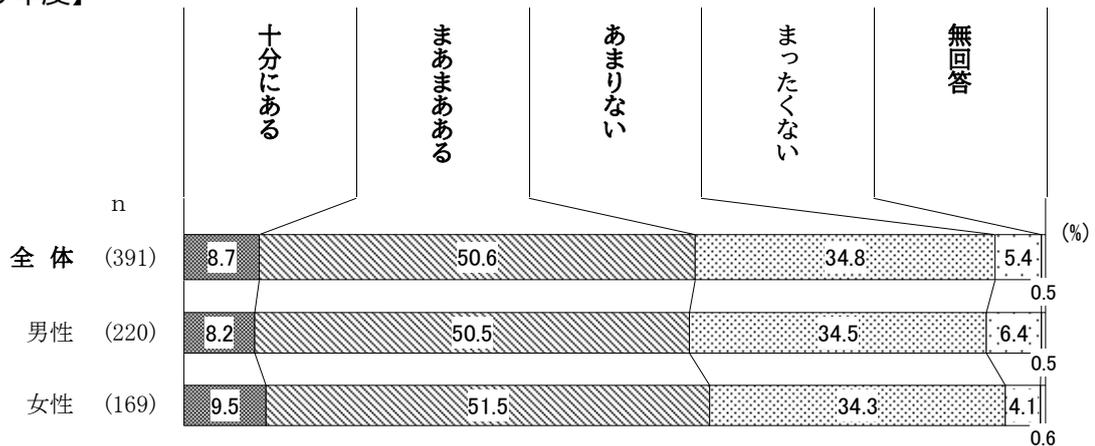
(9) 食事に関する必要な知識や技術の有無

◇《ある》が約6割、一方、《ない》は4割

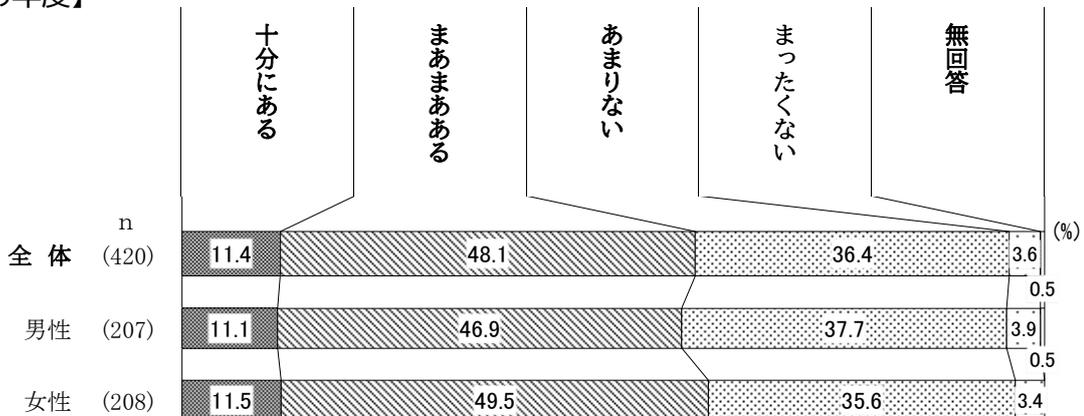
問20 あなたは、食品を選んだり、バランスのよい食事を作るのに必要な知識や技術があると思いますか。(○は1つだけ)

<図表V-3-14> 食事に関する必要な知識や技術の有無

【令和5年度】



【平成29年度】



食事に関する必要な知識や技術の有無を聞いたところ、「十分にある」(8.7%)と「まあまあある」(50.6%)を合わせた《ある》(59.3%)は約6割となっている。一方、「あまりない」(34.8%)と「まったくない」(5.4%)を合わせた《ない》(40.2%)は4割となっている。

性別では、大きな違いはみられない。

平成29年度の調査結果との比較では、全体、性別ともに大きな違いはみられない。(図表V-3-14)

4 身体活動・運動について

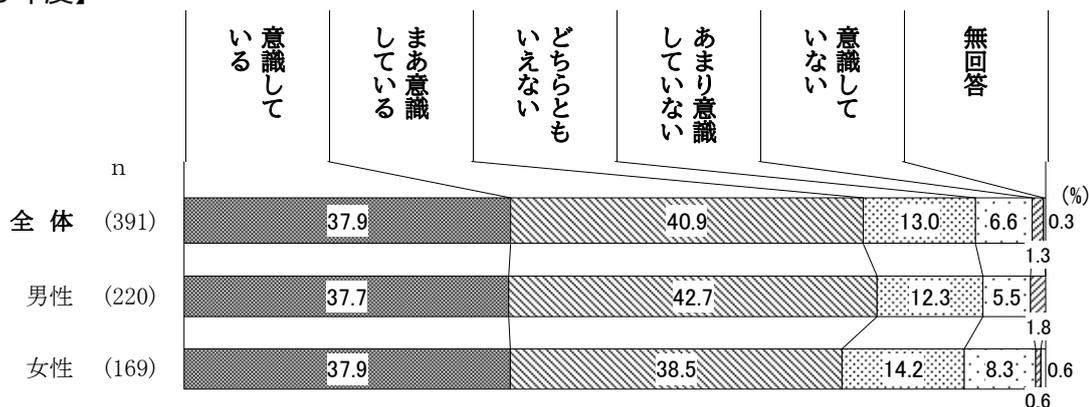
(1) こどもに運動させる心がけ

◇《意識している》は約8割、一方、《意識していない》は1割未満

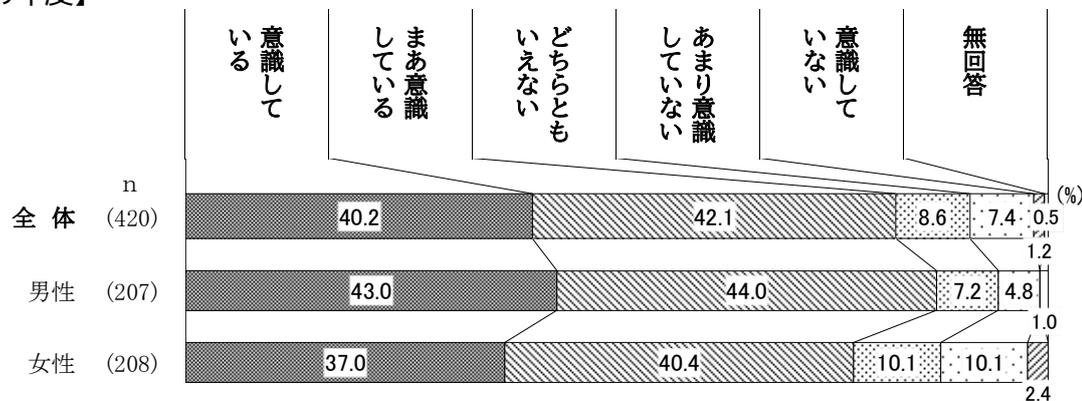
問21 あなたは、お子さんに意識して身体を動かすようにさせていますか。(○は1つだけ)

<図表V-4-1> こどもに運動させる心がけ

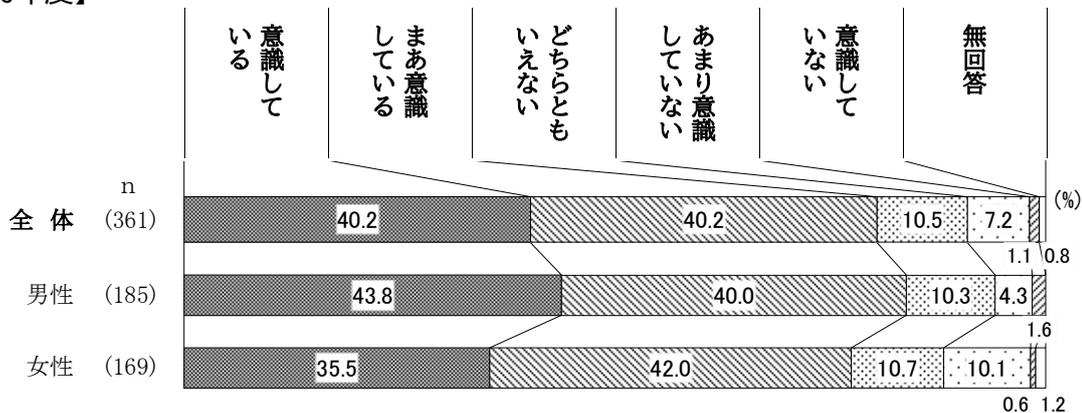
【令和5年度】



【平成29年度】



【平成25年度】



こどもに運動させる心がけについて聞いたところ、「意識している」(37.9%)と「まあ意識している」(40.9%)を合わせた《意識している》(78.8%)は約8割となっている。一方、「あまり意識していない」(6.6%)と「意識していない」(1.3%)を合わせた《意識していない》(7.9%)は1割未満となっている。

性別では、大きな違いはみられない。

過去の調査結果と比較すると、全体では特に大きな違いはみられない。性別では、男性は「意識している」が5ポイント、《意識している》でも6ポイント減少している。(図表V-4-1)

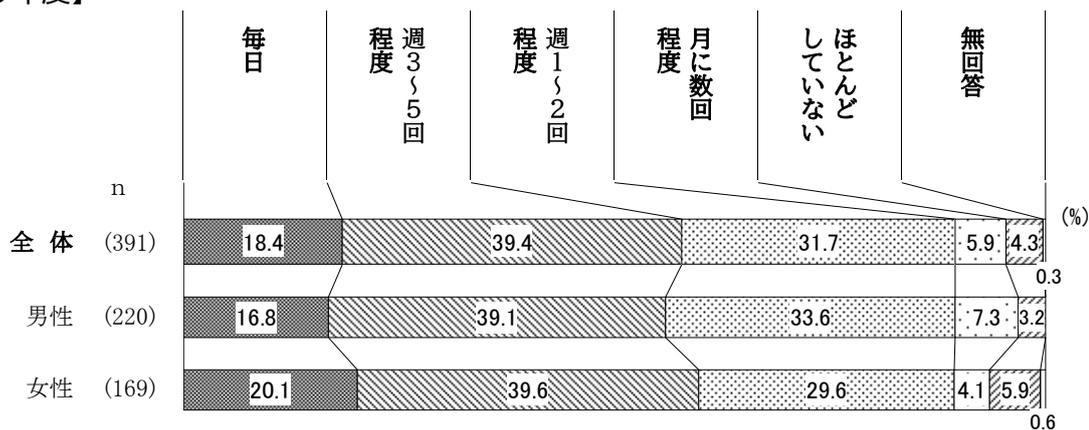
(2) こどもの運動や外遊びの頻度

◇「週3～5回程度」が約4割と最も高く、次いで「週に1～2回程度」が3割を超える

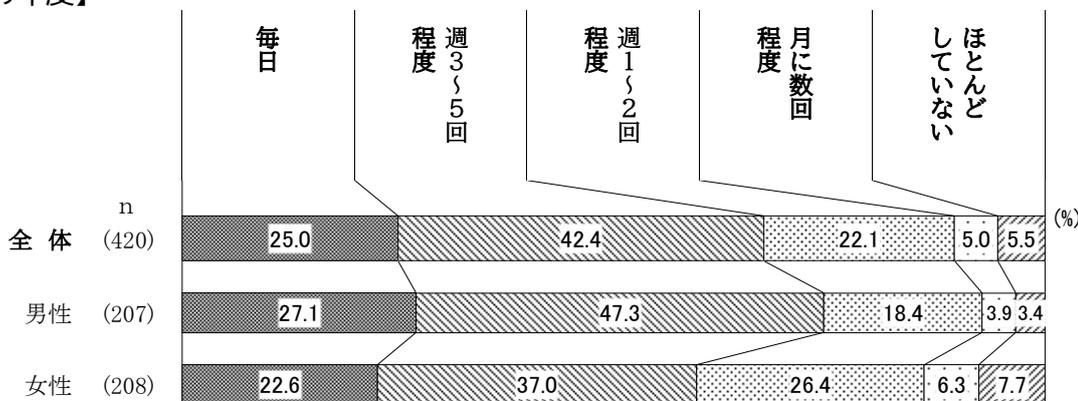
問22-1 お子さんは、どれくらい運動・外遊びをしますか。(○は1つだけ)
地域でのスポーツ活動、習い事なども含みます。(体育の授業を除く)

<図表V-4-2> こどもの運動や外遊びの頻度

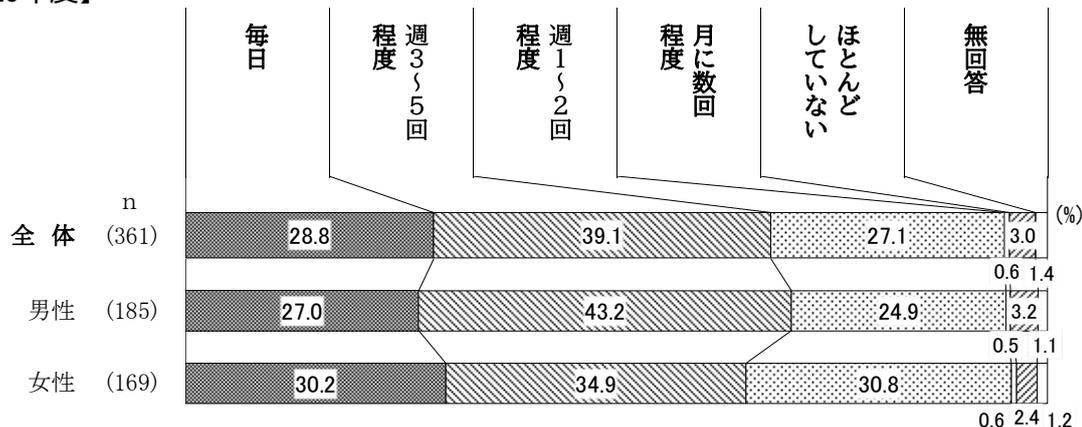
【令和5年度】



【平成29年度】



【平成25年度】

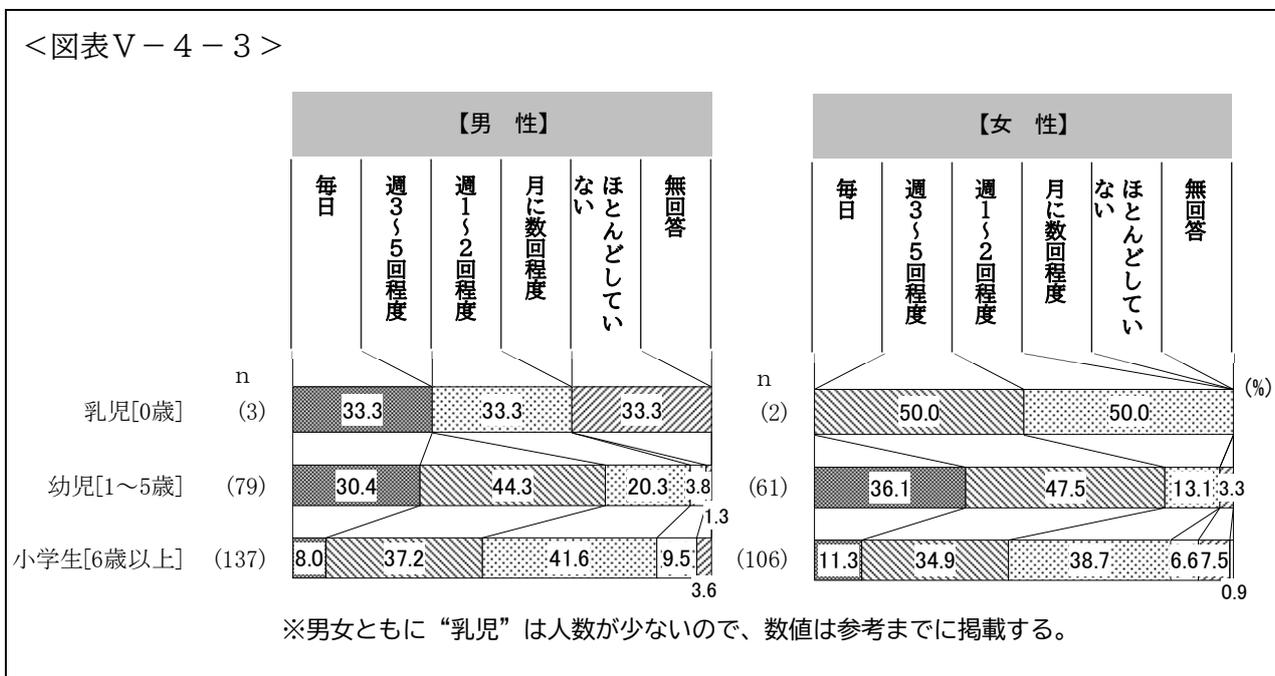


こどもの運動や外遊びの頻度としては、「毎日」(18.4%)が約2割、「週3～5回程度」(39.4%)が約4割、「週1～2回程度」(31.7%)が3割を超えている。

性別では、大きな違いはみられない。

過去の調査結果と比較すると、全体では「毎日」が減少傾向にあり、平成25年度から10ポイント、平成29年度から6ポイント減少している。「週1～2回程度」は9ポイント増加している。性別では、男性で平成29年度からの増減が目立ち、「毎日」は10ポイント、「週3～5回程度」は8ポイント減少し、「週1～2回程度」は15ポイント増加している。女性では「毎日」が平成25年度から10ポイント減少している。(図表V-4-2)

【性／年齢別】



男性では「週3～5回程度」は、幼児が4割台半ば、「週1～2回程度」は、小学生が4割を超えている。女性では「週3～5回程度」は、幼児が約5割、「週1～2回程度」は、小学生で約4割となっている。(図表V-4-3)

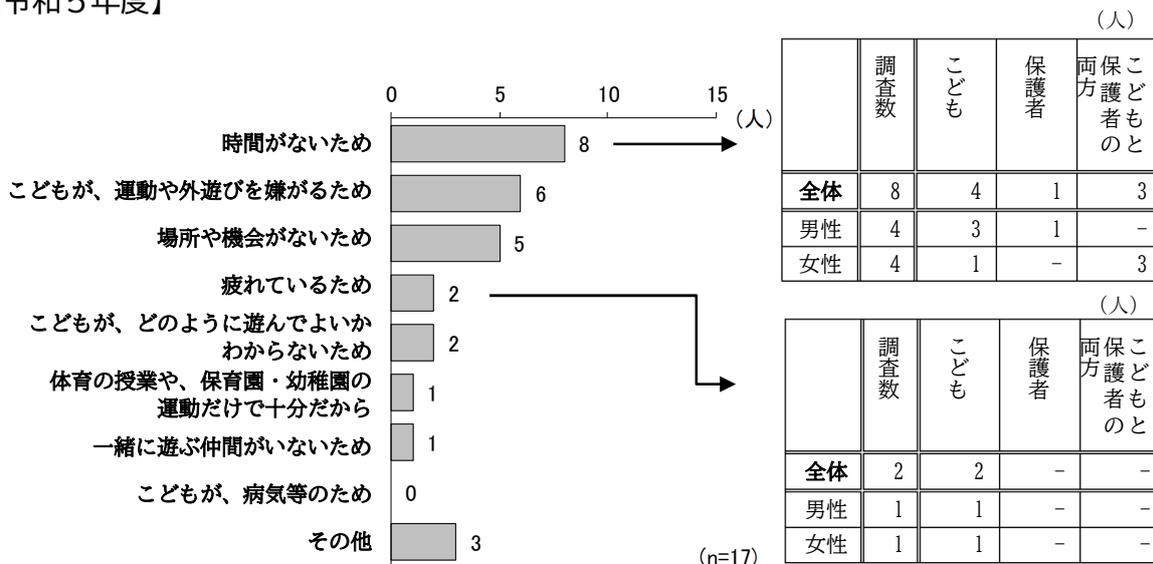
(3) こどもが運動や外遊びをしない理由

◇「時間がないため」が多い傾向

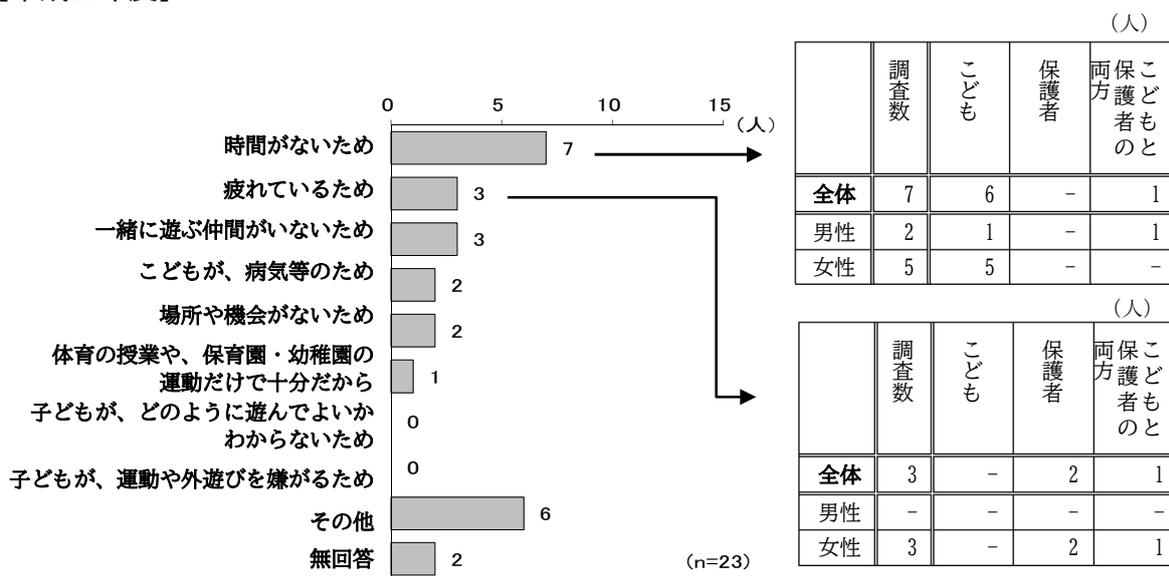
(問22-1で、「5 ほとんどしていない」とお答えの方に)
問22-2 運動・外遊びをほとんどしない理由は何ですか。(○はいくつでも)

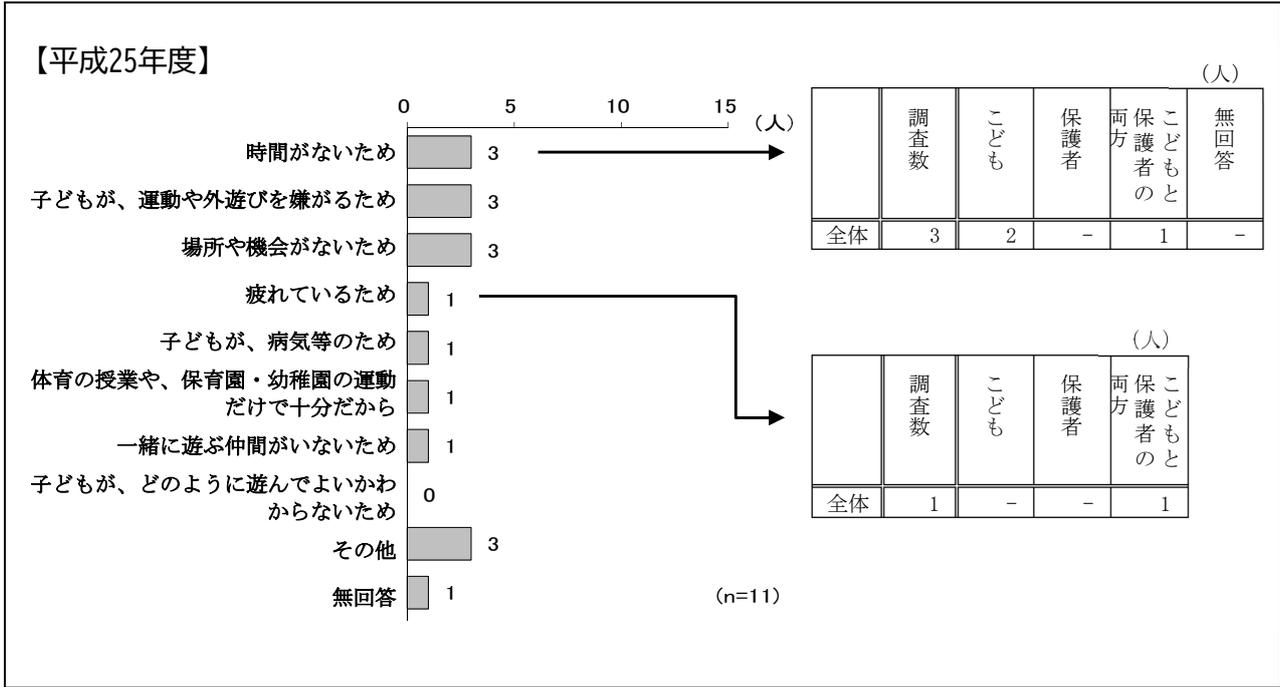
<図表V-4-4> こどもが運動や外遊びをしない理由

【令和5年度】



【平成29年度】





問22-1で、「ほとんどしていない」と回答した人にその理由を聞いた。ここでは回答者数が少ないため、参考までに留める。このほか、「時間がないため」と「疲れているため」と回答した方には、それが誰なのかを聞いた結果も右に記載してある。

過去の調査結果との比較では、参考までに留める。(図表V-4-4)

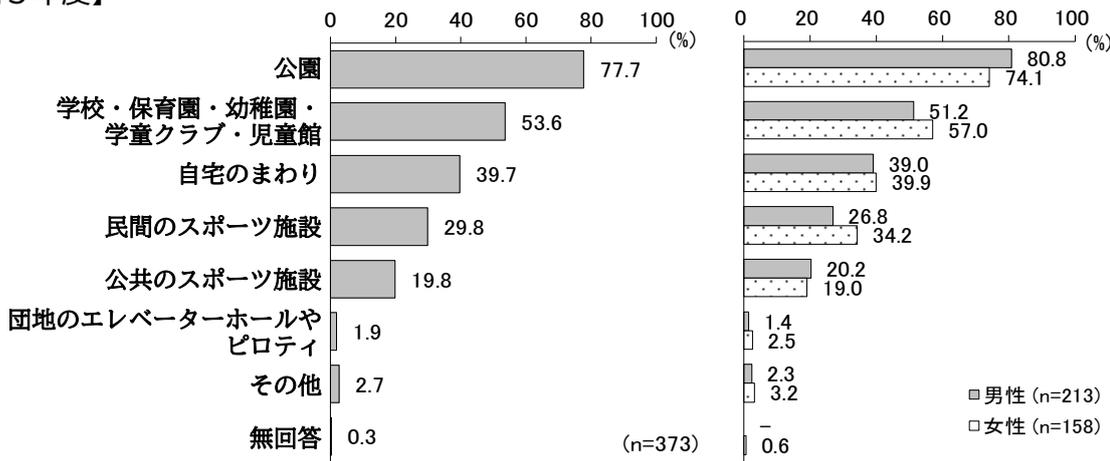
(4) こどもが運動や外遊びをする場所

◇「公園」が約8割で最も高い

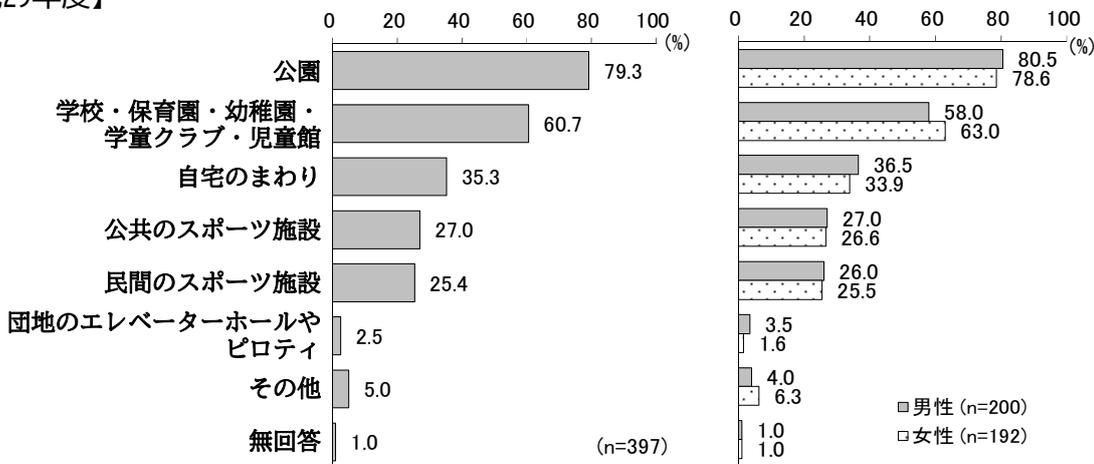
(問22-1で、「1」～「4」とお答えの方に)
問22-3 運動・外遊びをどこでしていますか。(○はいくつでも)

<図表V-4-5>こどもが運動や外遊びをする場所

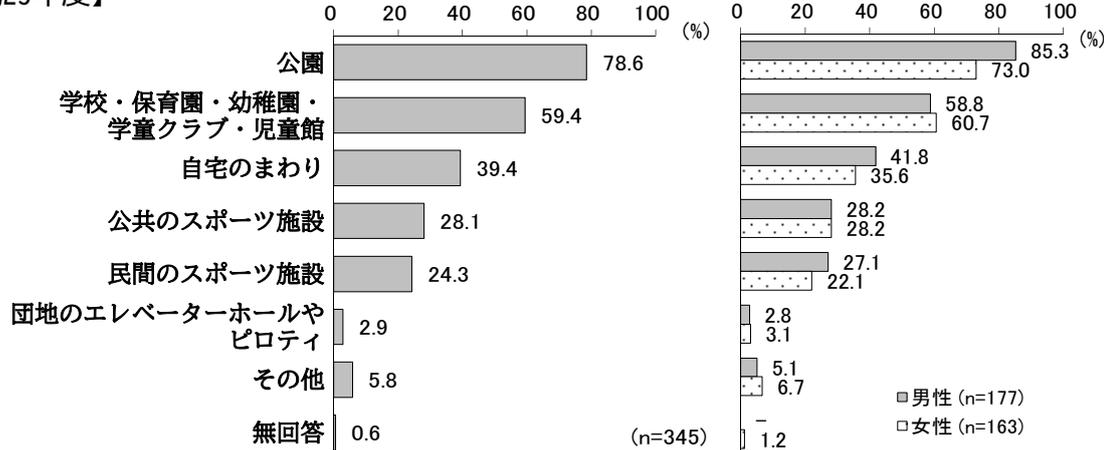
【令和5年度】



【平成29年度】



【平成25年度】



問22-1で、「1」～「4」と回答した人にその場所を聞いたところ、「公園」(77.7%)が約8割で最も高く、次いで「学校・保育園・幼稚園・学童クラブ・児童館」(53.6%)が5割台半ば、「自宅のまわり」(39.7%)が約4割となっている。

性別では「公園」は、男性が女性より6ポイント高く、8割となっている。「学校・保育園・幼稚園・学童クラブ・児童館」は、女性が男性より5ポイント高く、約6割、「民間のスポーツ施設」は、同7ポイント高く、3割台半ばとなっている。

過去の調査結果と比較すると、全体では「学校・保育園・幼稚園・学童クラブ・児童館」と「公共のスポーツ施設」が7ポイント減少している。性別では、平成29年度から「学校・保育園・幼稚園・学童クラブ・児童館」は男女ともに6ポイント、「公共のスポーツ施設」は、男性で6ポイント、女性で7ポイント減少している。また、女性は「自宅のまわり」が6ポイント、「民間のスポーツ施設」が8ポイント増加している。(図表V-4-5)

(5) こどもの平均的な運動や外遊びの時間

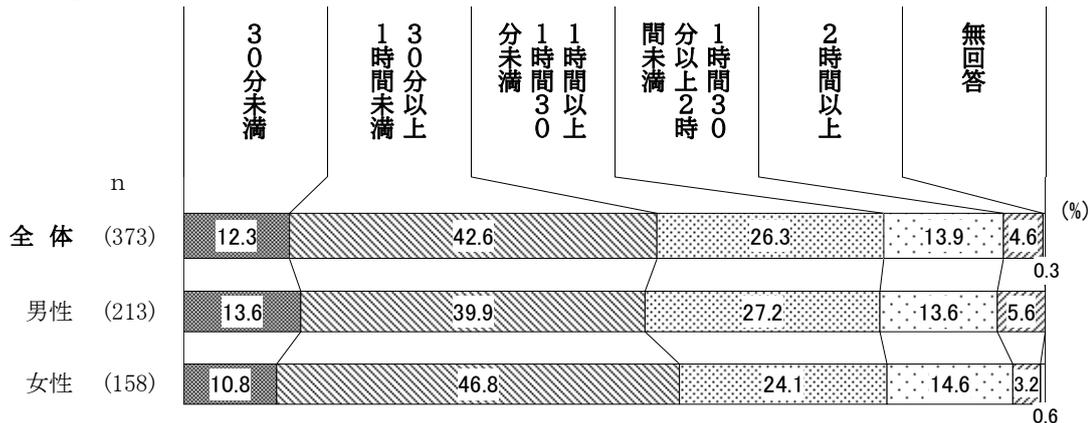
◇「30分以上1時間未満」が4割を超えている

(問22-1で、「1」～「4」とお答えの方に)

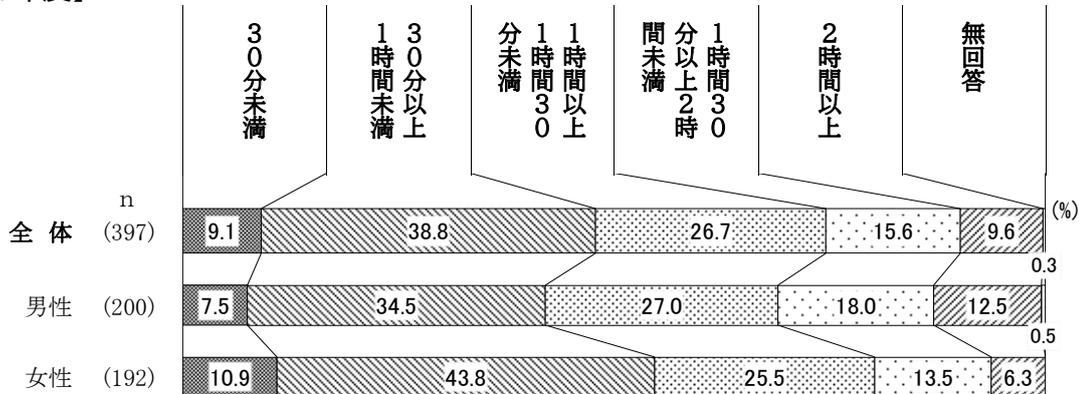
問22-4 1日平均どのくらい運動・外遊びをしますか。(○は1つだけ)

<図表V-4-6> こどもの平均的な運動や外遊びの時間

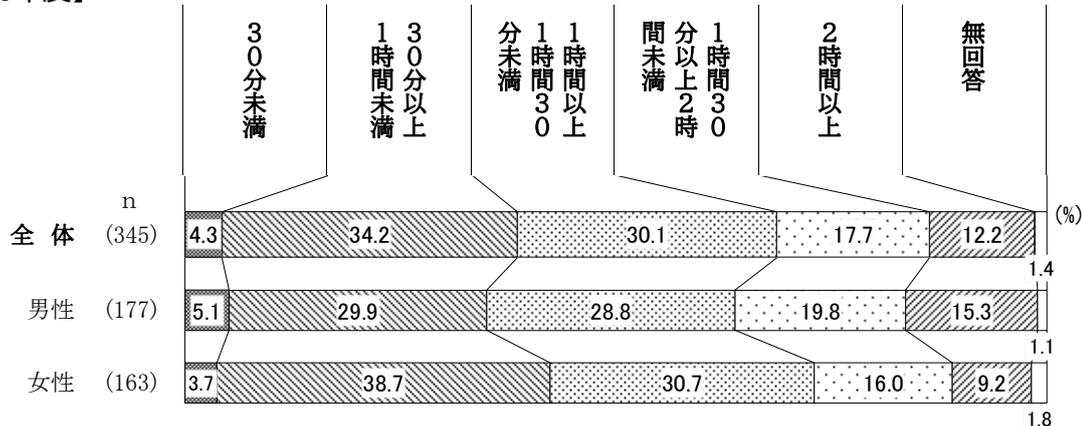
【令和5年度】



【平成29年度】



【平成25年度】



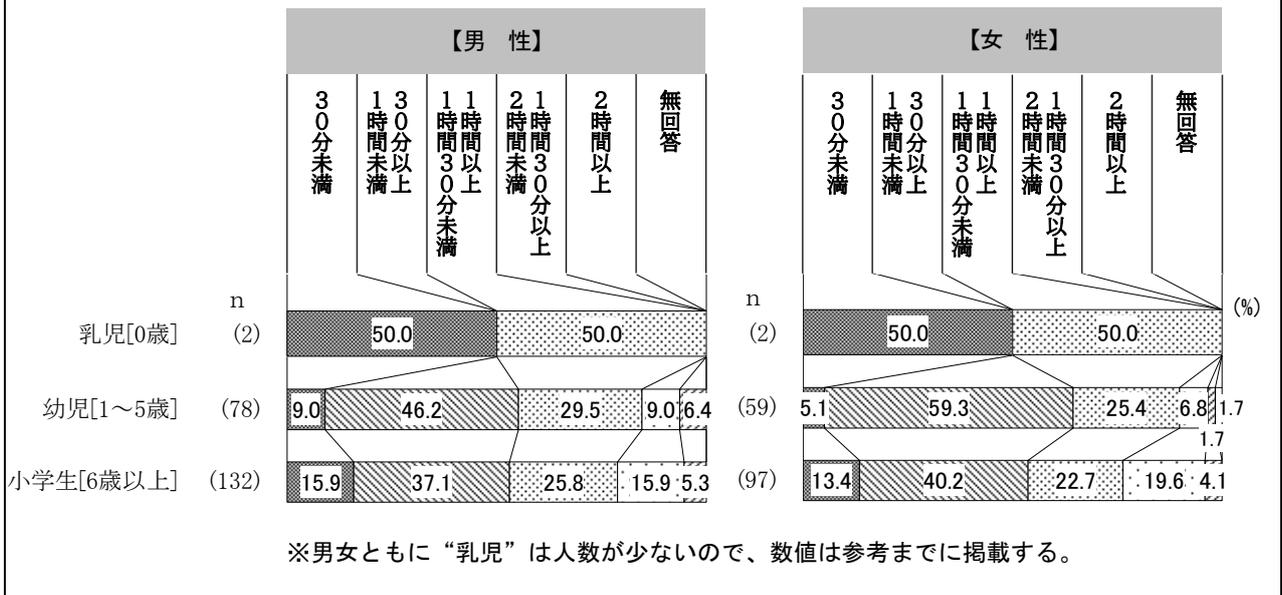
問22-1で、「1」～「4」と回答した人にどの程度の時間を聞いたところ、「30分以上1時間未満」(42.6%)が4割を超えて最も高く、次いで「1時間以上1時間30分未満」(26.3%)が2割台半ば、「1時間30分以上2時間未満」(13.9%)が1割台半ば、「30分未満」(12.3%)が1割を超えている。

性別でみると、「30分以上1時間未満」は女性が男性より6ポイント高く、4割台半ばとなっている。

過去の調査結果と比較すると、全体では「30分以上1時間未満」が増加傾向にあり、平成25年度から8ポイント増となっている。また、「30分未満」は漸増、「2時間以上」は漸減傾向にある。これは性別でみても、ほぼ同様の傾向にあり、「30分以上1時間未満」が男女ともに増加傾向にあり、男性は平成25年度から10ポイント、平成29年度から5ポイント、女性は平成25年度から8ポイント増加している。また、平成25年度から「30分未満」は、男性で8ポイント、女性で7ポイント増加、「2時間以上」は、男性で9ポイント、女性で6ポイント減少している。(図表V-4-6)

【性／年齢別】

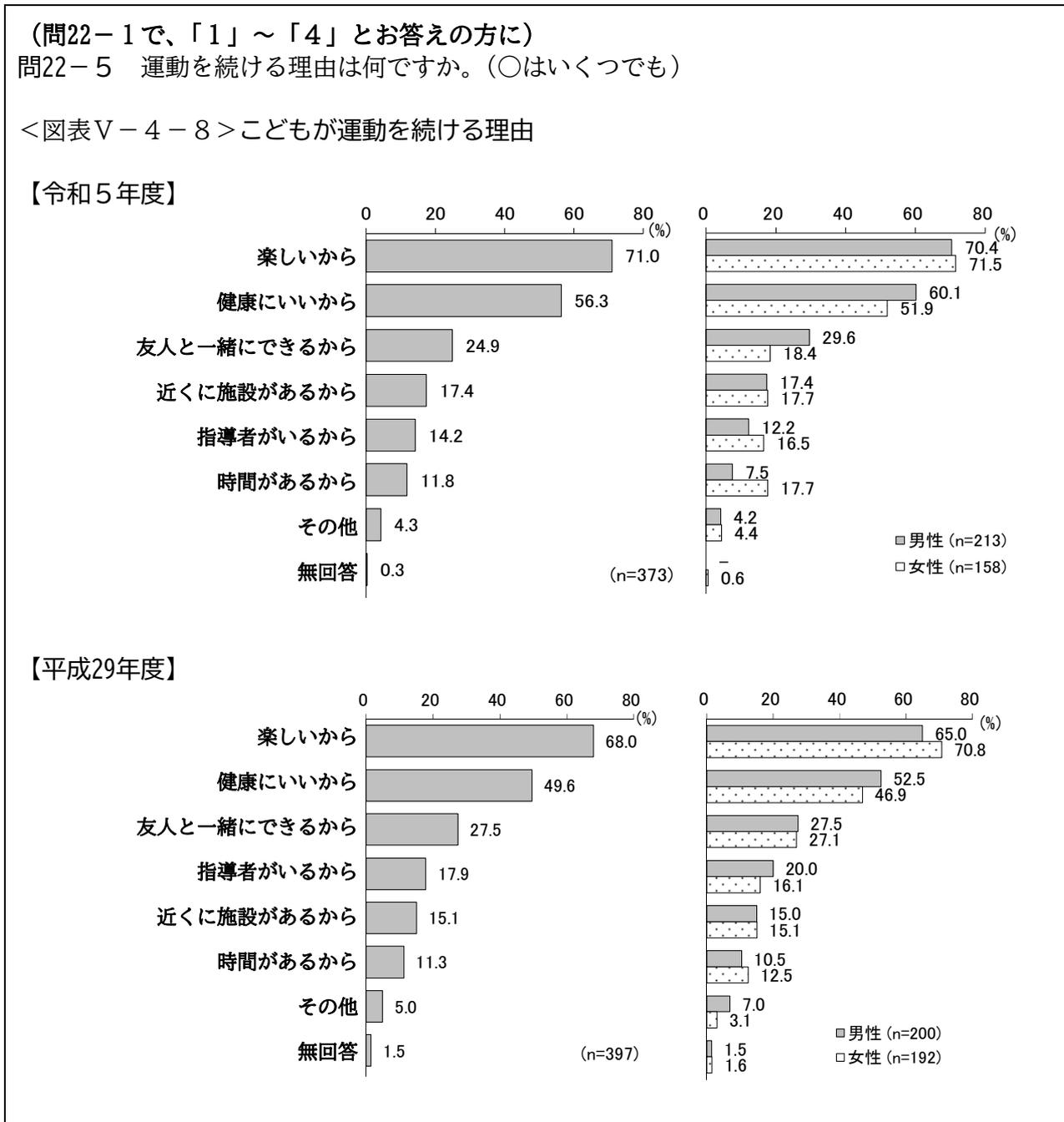
<図表V-4-7>



男性では「30分以上1時間未満」は、幼児が4割台半ば、小学生が約4割となっている。女性では「30分以上1時間未満」は、幼児が約6割と高く、小学生も4割となっている。(図表V-4-7)

(6) こどもが運動を続ける理由

◇「楽しいから」が7割を超えて最も高く、次いで「健康にいいから」が5割台半ば



問22-1で、「1」～「4」と回答した人にこどもが運動を続ける理由を聞いたところ、「楽しいから」(71.0%)が7割を超えて最も高く、次いで「健康にいいから」(56.3%)が5割台半ば、「友人と一緒にできるから」(24.9%)が2割台半ばとなっている。

性別でみると、「健康にいいから」は男性が女性より8ポイント高く、6割、「友人と一緒にできるから」は同11ポイント高く、約3割となっている。また、「時間があるから」は女性が男性より10ポイント高く、約2割となっている。

平成29年度の調査結果と比較すると、全体では「健康にいいから」が6ポイント増加している。性別では男性は「健康にいいから」が7ポイント、「楽しいから」が5ポイント増加し、「指導者がいるから」で7ポイント減少している。女性は「健康にいいから」と「時間があるから」で5ポイント増加し、「友人と一緒にできるから」で8ポイント減少している。(図表V-4-8)

(7) こどものスポーツ活動や運動の習い事の有無

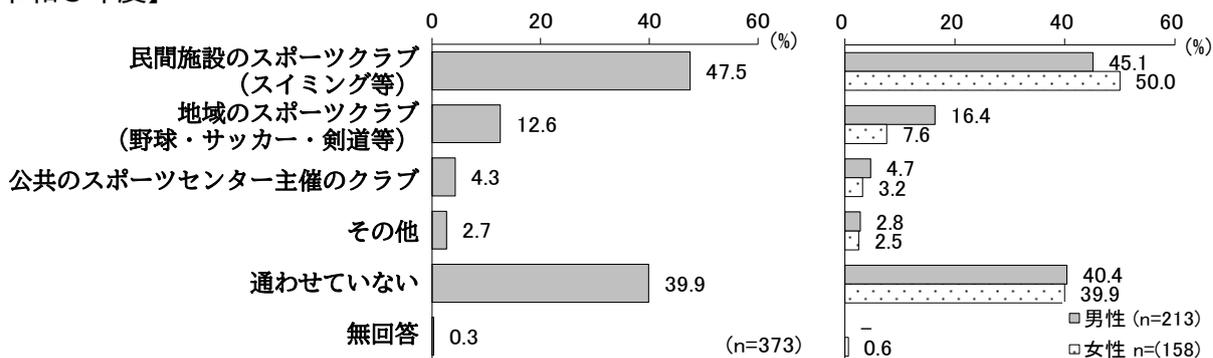
◇「民間施設のスポーツクラブ（スイミング等）」が約5割

(問22-1で、「1」～「4」とお答えの方に)

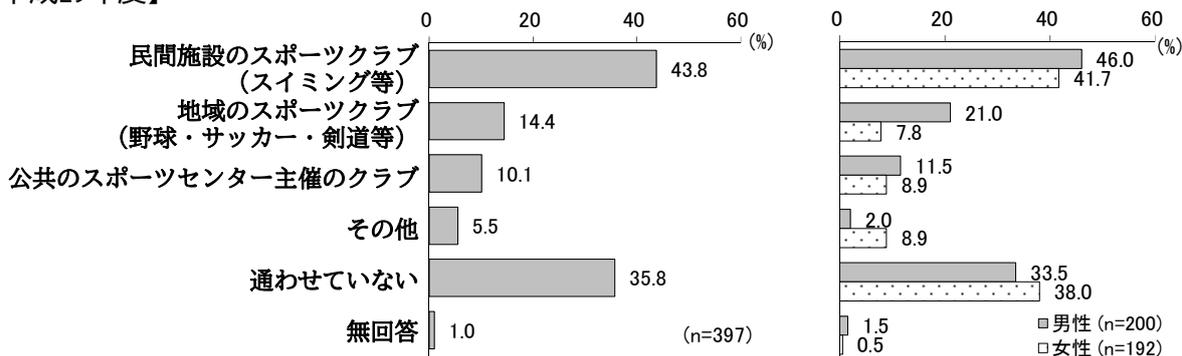
問22-6 スポーツ活動や運動の習い事に通わせていますか。(○はいくつでも)

<図表V-4-9>こどものスポーツ活動や運動の習い事の有無

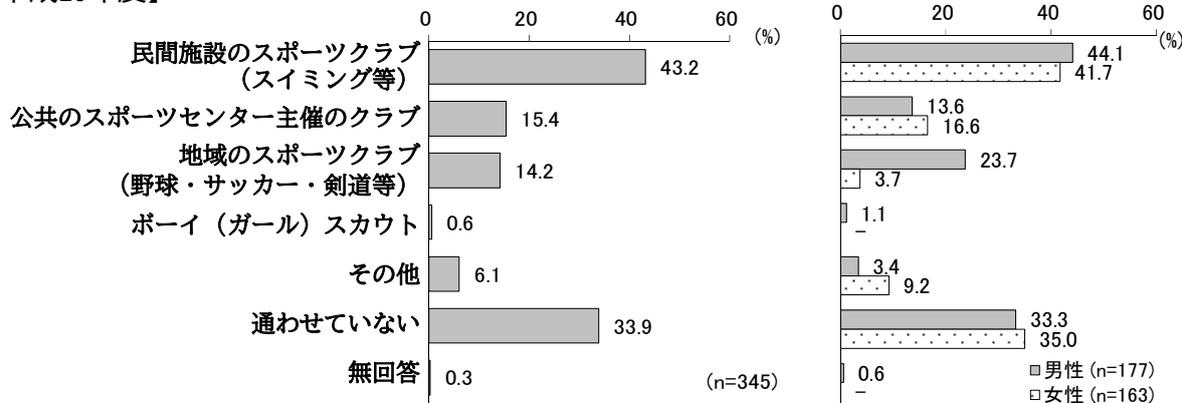
【令和5年度】



【平成29年度】



【平成25年度】



問22-1で、「1」～「4」と回答した人にこどものスポーツ活動や運動の習い事の有無を聞いたところ、「民間施設のスポーツクラブ（スイミング等）」（47.5%）が約5割で最も高く、「地域のスポーツクラブ（野球・サッカー・剣道等）」（12.6%）が1割を超えている。一方、「通わせていない」（39.9%）は約4割となっている。

性別で見ると、「地域のスポーツクラブ（野球・サッカー・剣道等）」は男性が女性より8ポイント高く、1割台半ばとなっている。

過去の調査結果と比較すると、全体では「公共のスポーツセンター主催のクラブ」は減少傾向にあり、平成25年度から11ポイント、平成29年度から5ポイント減となっている。性別で見ても「公共のスポーツセンター主催のクラブ」は減少傾向で、平成25年度から男性で8ポイント、女性で13ポイント、平成29年度から男性で6ポイント、女性で5ポイントの減少となっている。一方、「通わせていない」は男女ともに漸増傾向にあり、男性では平成29年度から6ポイント増加している。（図表V-4-9）